

# 令和5年度の災害を中心とした事例集 (災害対応事例集)

令和6年5月

消 防 庁



# 目次

<b>令和5年梅雨前線による大雨及び台風第2号</b>	
令和5年梅雨前線による大雨及び台風第2号の概要	1
和歌山県海南市	3
<b>令和5年6月 29 日からの大雨</b>	
令和5年6月 29 日からの大雨の概要	9
山口県山口市	11
福岡県久留米市	20
佐賀県唐津市	29
石川県津幡町	37
<b>令和5年7月 15 日からの大雨</b>	
令和5年7月 15 日からの大雨の概要	47
秋田県五城目町	49
秋田県秋田市	55
<b>令和5年台風第6号</b>	
令和5年台風第6号の概要	63
沖縄県那覇市	65
<b>令和5年台風第7号</b>	
令和5年台風第7号の概要	77
鳥取県鳥取市	79

※ 各首長からのメッセージにおける被害状況の数値は、取材を行った時点のものです。

# 令和5年梅雨前線による大雨及び台風第2号

## 1 気象の概要

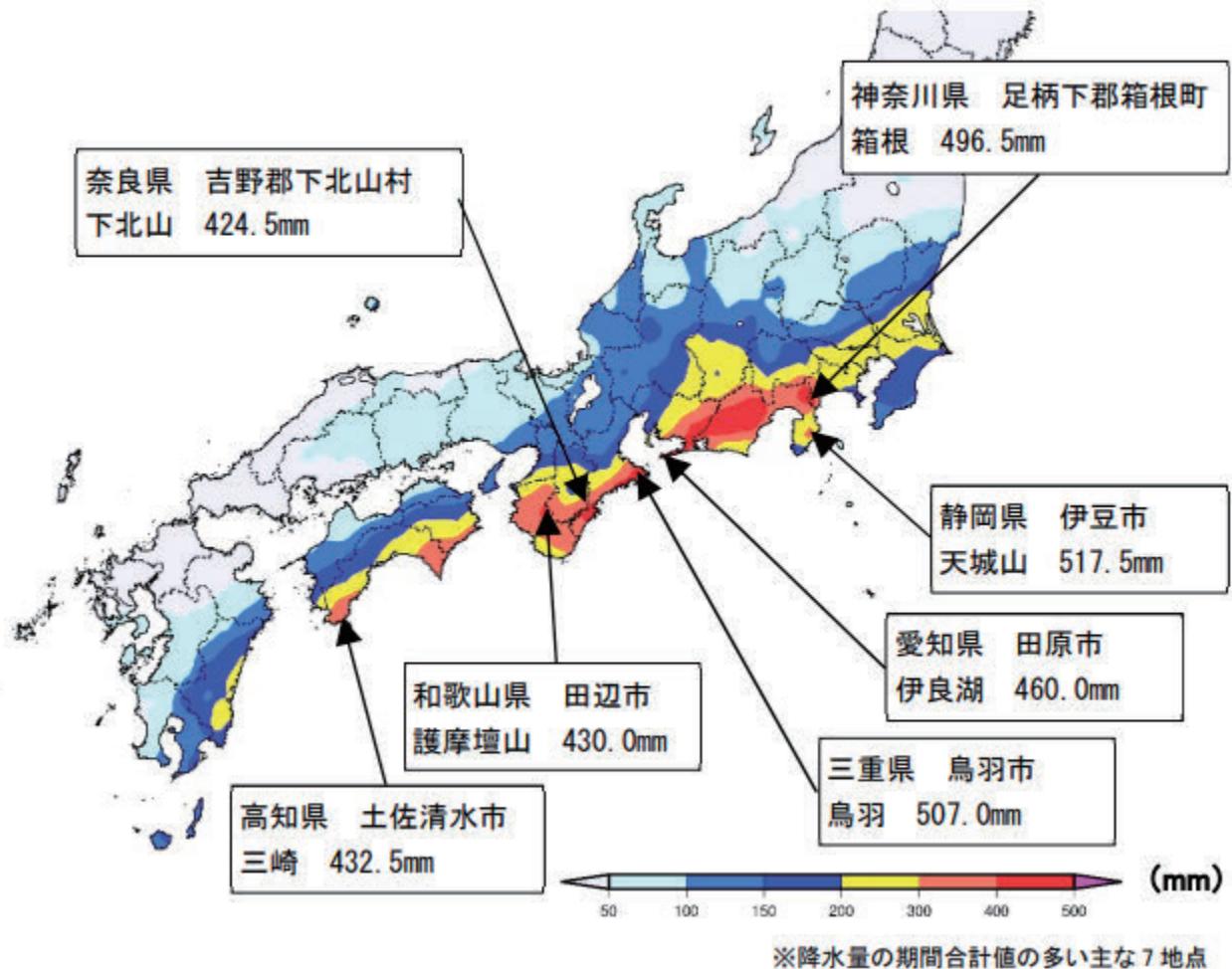
梅雨前線が6月1日から3日午前中にかけて本州付近に停滞した。前線に向かって台風第2号周辺の非常に暖かく湿った空気が流れ込んだため、2日には前線の活動が活発になった。

西日本から東日本の太平洋側を中心に大雨となり、高知県、和歌山県、奈良県、三重県、愛知県、静岡県では線状降水帯が発生した。1時間に80ミリ以上の猛烈な雨が降り、1時間降水量が観測史上1位の値を更新した地点があった。また、降り始めからの雨量は東海地方で500ミリを超えたほか、四国地方、近畿地方、関東地方でも400ミリを超え、平年の6月の月降水量の2倍を超えた地点があった。

注) 気象庁ホームページ:「災害をもたらした気象事例」(梅雨前線及び台風第2号による大雨 令和5年(2023年)6月23日)から

## 3. 雨の状況

### (1) 降水量の期間合計値分布図(6月1日~6月3日)



(気象庁ホームページから)

## 2 被害の概要

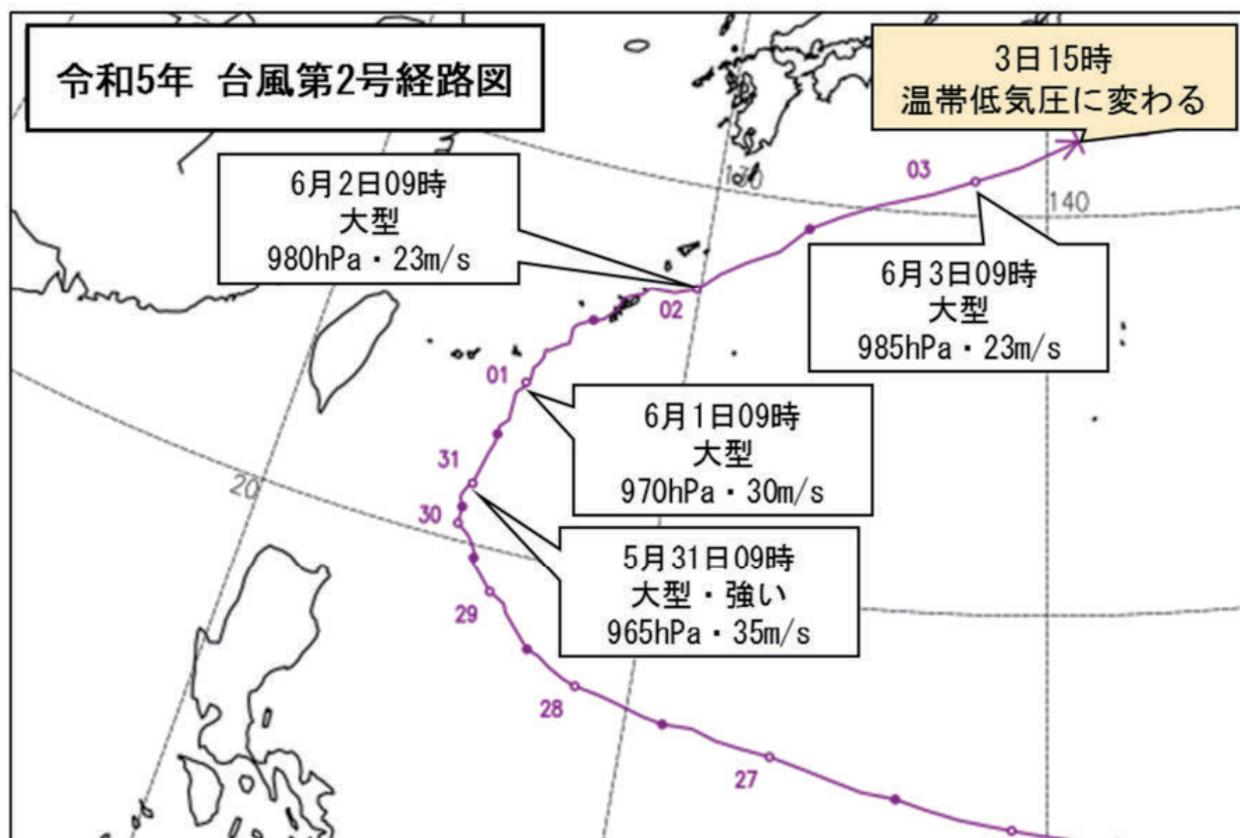
この大雨により、西日本から東日本の広い範囲で河川氾濫、浸水、崖崩れ等の被害が発生した。静岡県浜松市においては、崖崩れに住家が巻き込まれるなど、東海地方を中心に、死者6人、行方不明者2人、負傷者49人の人的被害が発生した。

また、埼玉県で4,092棟、和歌山県で3,149棟が浸水するなど計10,113棟の住家被害が発生した。

【人的被害】死者6人、行方不明者2人、負傷者49人（重傷5人、軽傷44人）

【住家被害】全壊21棟、半壊536棟、床上浸水2,398棟、床下浸水6,961棟、一部破損197棟

注）令和5年梅雨前線による大雨及び台風第2号による被害及び消防機関等の対応状況（第17報）から



経路上の印：○が09時、●が21時を示す

経路上の吹き出しの数値：日時と大きさ、強さ、中心気圧、最大風速を示す

## 1 海南市長からのメッセージ

## 海南市長 神出 政巳

●梅雨前線の活発化、台風第2号の接近に伴い、5月31日から和歌山地方気象台と情報共有を行い、準備を進めていた。6月1日には、気象台から大雨の予報が出て、危機管理課を中心に災害対応準備を始めた。和歌山地方気象台の予測では、線状降水帯の発生場所は、本市よりもっと北であったが、雲の動きが不安定であったため、線状降水帯が発生すれば、甚大な被害が生じるものと警戒していた。

●2日午前9時9分の大雨・洪水警報発表と同時に災害対策連絡室を設置、市内各所に緊急避難場所を開設し、適宜、災害対策連絡室会議にも出席、状況報告を受け、指示を出すなど対応にあたる中、線状降水帯は予測よりも南下し、本市にかかった。市内の二級河川の亀の川、日方川、貴志川、加茂川、小原川など、複数河川が溢水し、初めての経験となる大規模な浸水被害が発生した。

●河川の水位上昇が早く、「警戒レベル3高齢者等避難」発令から「警戒レベル4避難指示」発令までわずか4分、「警戒レベル5緊急安全確保」発令まで1時間30分弱と短かったので、この間の状況判断は難しかった。特に、川の傍にある学校は心配した。周辺の道路が浸水し、保護者も近づけない場所もあった。直ぐに水が引いてくれたので良かったが、教育委員会や関係所管課との情報共有や対応について、反省も残った。また、「警戒レベル5緊急安全確保」は、河川水位情報をもとに発令し、住民には適切な避難行動をとっていただいたが、中には、自宅周辺が浸水していても、市指定緊急避難場所まで避難しようとしたケースもあった。

●短時間に多くの地区が浸水したため、災害対策連絡室では、状況把握や全体像の把握、情報整理に苦慮した。また、災害救助法や被災者生活再建支援法に基づく災害対応業務が未経験であったため、各種制度の把握や、被災者向けの周知案内の作成にも苦労したが、災害救助法適用が早期に決まったことに助けられた。何より、死者がゼロ、軽傷者が3人と大きな人的被害がなかったこと、また、水道施設の被害も、一部の断水で済んだことが幸이었다。水道施設の機能確保は特に重要だ。

●水害は「ごみと泥との戦い」だ。今回の豪雨災害では、災害ごみが市中に溢れないよう、臨時ごみ集積所を早期に確保し、住民や議員にできる限り広く周知に努めた。同時に、ごみ処理や家屋調査に関して、他の自治体に車両や人的支援を要請し、いち早く、各地・各方面からの応援受入体制を構築したことで、その後の被害調査、消毒、ごみ処理、泥の除去など、迅速な初期対応と円滑な災害復旧に繋がった。災害ボランティアセンターや被災者相談窓口など、復旧に向けた約2か月にわたる丁寧な支援は、各団体の方々との連携・協力により実現できたものであり、心から感謝している。なお、県河川の各所での溢水の原因については、流木などが橋に引っ掛かり、流れを阻害したケースが見受けられるため、県とも相談し、今後、増水時に何らかの対策が取れないか、検討している。

●本市では、自主防災組織の結成率は97%であり、南海トラフ地震やそれに伴う大津波がいつ来るかわからない状況のため、熱心に訓練に取り組んで頂いている地域も多い。今回も、自主防災組織の中には、地区で声掛けをして安全を確保するなど、被災者を支援したケースや、ポンプ室の鍵を開けようと自治会長さんが市役所に来てくれたケースなど、防災には関心が高く、真剣だ。

阪神・淡路大震災が29年前、東日本大震災が13年前、今年は能登半島地震と続いており、職員を鍛え、経験を積ませるべく、現地への派遣を行っているが、すぐに職員が駆け付けられないことも想定し、市民の方々と、自助・共助について、現実的に考えていく必要がある。

●「明日は我が身」との意識で職員一人ひとり、特に、管理職は誰もが災害対応の最前線に立たなければならない気構えで、被災した場面や行動をシュミレーションしておくこと、被災者の目線・気持ちになって丁寧な情報発信や対応をすることだ。近隣の市町村との連携だけではなく、少し離れた市町村との強いつながりも大事。そのためには、日頃からの関係構築が大切だと考えている。

## 2 気象の概要

梅雨前線が6月1日から3日午前中にかけて本州付近に停滞した。前線に向かって台風第2号周辺の非常に暖かく湿った空気が流れ込んだため、2日には前線の活動が活発になった。西日本から東日本の太平洋側を中心に大雨となり、高知県、和歌山県、奈良県、三重県、愛知県、静岡県では線状降水帯が発生した。1時間に80ミリ以上の猛烈な雨が降り、1時間降水量が観測史上1位の値を更新した地点があった。また、降り始めからの雨量は東海地方で500ミリを超えたほか、四国地方、近畿地方、関東地方でも400ミリを超え、平年の6月の月降水量の2倍を超えた地点があった。

注) 気象庁 災害をもたらした気象事例(令和5年6月23日)から

【市内で観測された雨量の状況(最大)】

1時間雨量(6月2日11時~12時) 69mm

3時間雨量(6月2日11時~14時) 153mm

降り始めからの累積雨量(6月1日から6月3日) 396mm

注) 和歌山県ホームページ 「和歌山県/雨量防災情報」で公表された県設置雨量計データから

## 3 被害の状況

【人的被害】 軽傷3人

【住家被害】 1,418件(全壊1件、床上浸水457件、床下浸水960件)

【避難状況】 市指定避難所(市指定緊急避難場所): 31カ所

最大避難者数: 110世帯、173人(6月2日16時)

【道路・河川の被害】 市道・里道: 172カ所

河川・水路: 327カ所

農道等 : 260カ所

林道等 : 17カ所

注) 海南市データ



加茂川沿い被害（海南市提供）



亀の川溢水（海南市提供）



加茂川溢水（海南市提供）

#### 4 災害の時系列

##### 6月1日（木）

11:11 「気象の見通し資料」の送付【気象台】

14:00 「梅雨前線による大雨に関する説明会」の実施【気象台】

##### 6月2日（金）

09:09 大雨警報（土砂災害、浸水害）・洪水警報発表【気象台】

警戒配備体制 44 人体制

災害対策連絡室設置

2 施設で市指定緊急避難場所を設置

11:06 警戒配備体制強化（警戒配備体制から引き上げ） 126 人体制

警戒レベル3 高齢者等避難発令（河川・土砂災害）

洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域 15,805 世帯、34,062 人

18 施設追加で市指定緊急避難場所を設置（計 20 カ所）

11:10 土砂災害警戒情報発表【気象台・和歌山県】

9 施設追加で市指定緊急避難場所を設置（計 29 カ所）

第1号配備体制（警戒配備体制強化から引き上げ） 165 人体制

警戒レベル4 避難指示発令（河川・土砂災害）（警戒レベル3 高齢者等避難から引き上げ）

洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域 15,805 世帯、34,062 人

11:20 臨時で市指定緊急避難場所を追加開設（計 30 カ所）

日方川 避難判断水位超過(2.13m)

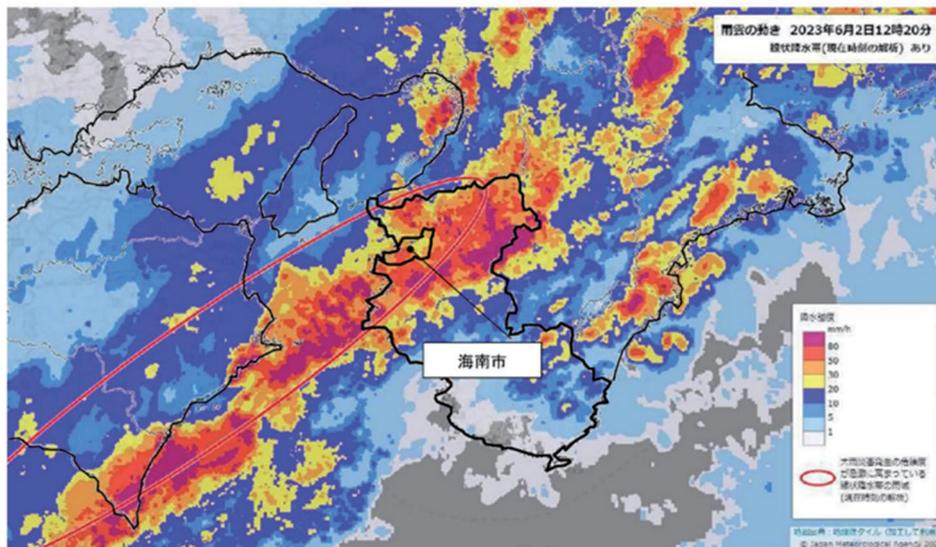
11:30 日方川 氾濫危険水位超過(2.54m)

加茂川 避難判断水位超過(2.03m)

11:40 加茂川 氾濫危険水位超過(2.33m)

11:50 亀の川 避難判断水位超過(1.82m)

12:01 「顕著な大雨に関する和歌山県気象情報第 1 号（和歌山県北部）」発表【气象台】



12:10 亀の川 氾濫危険水位超過(2.18m)

12:20 和歌山地方気象台長から海南市長にホットライン（電話）【气象台】

線状降水帯の発生、最大級の警戒の呼びかけ

12:34 第 2 号配備体制（第 1 号配備体制から引き上げ） 326 人体制

警戒レベル5 緊急安全確保発令（日方川流域、加茂川流域）

日方川流域 4,668 世帯、9,335 人

加茂川流域 1,499 世帯、3,488 人

13:00 貴志川 避難判断水位超過(4.30m)

13:20 貴志川 氾濫危険水位超過(5.11m)

13:45 警戒レベル5 緊急安全確保発令（下田和池下流部）

下田和池下流部 46 世帯、109 人

13:48 警戒レベル5 緊急安全確保発令（亀の川流域）

亀の川流域 2,121 世帯、4,960 人

13:59 警戒レベル5 緊急安全確保発令（貴志川流域）

貴志川流域 987 世帯、2,146 人

15:16 臨時で市指定緊急避難場所を追加開設（計 31 カ所）

16:00 市指定緊急避難場所に避難者 110 世帯、173 人（最大）

18:30 警戒レベル5 緊急安全確保を解除し、警戒レベル4 避難指示に引き下げ

（日方川流域、加茂川流域、亀の川流域）

災害廃棄物一次集積所(わんぱく公園駐車場、JAながみね下津選果場跡地)を選定

20:00 第8回災害対策連絡室会議

- ・被害の概要
- ・災害廃棄物の対応
- ・住家等の被害調査
- ・消毒
- ・災害見舞金の配布等 の方針を確認

21:00 警戒配備体制強化(第2号配備体制から引き下げ)

**6月3日(土)**

00:52 大雨警報(土砂災害)・洪水警報に切替【气象台】

01:50 警戒レベル4避難指示解除(日方川流域、加茂川流域、亀の川流域)

01:54 警戒レベル5緊急安全確保を解除し、警戒レベル4避難指示に引き下げ(貴志川流域)

02:50 土砂災害警戒情報解除【气象台・和歌山県】

03:35 警戒レベル4避難指示解除(土砂災害)

05:54 洪水警報解除【气象台】

05:59 警戒レベル4避難指示解除(貴志川流域)

06:10 警戒レベル5緊急安全確保解除(下田和池下流部)

06:57 大雨警報(土砂災害)解除【气象台】

07:00 家屋被害調査を開始 40班、81人体制(対象:139自治会)

海南海草清掃協同組合等によるし尿汲み取り開始

09:00 災害廃棄物一次集積所(わんぱく公園駐車場、JAながみね下津選果場跡地)を開設  
(職員17人体制)

11:30 家屋被害調査に和歌山県職員の応援【和歌山県】

16:00 海南市災害ボランティアセンター設置

17:00 和歌山県に被害状況報告(床上浸水180戸以上)

県内に限定し、災害ボランティアの受付を開始(海南市災害ボランティアセンター)

水道補修完了(一部のマンション除き完全復旧)

国道424号、370号の堆積物・支障物の除去作業開始【和歌山県】

**6月4日(日)**

07:00 家屋被害調査の実施 108班、218人体制に増員(対象:最終は184自治会に拡大)

家屋被害調査に和歌山県職員の応援【和歌山県】

08:30 災害ボランティア活動開始(海南市災害ボランティアセンター)~7月31日延べ1,870人

09:00 災害廃棄物一次集積所へ海南青年会議所から応援(6/4~6/7)

13:00 被災住宅等への消毒対応開始 82人体制

16:00 他自治体への人的・車両支援(災害廃棄物応援)の依頼

(相馬市、倉敷市、東近江市、泉佐野市、高槻市、和泉市、和歌山市、橋本市、御坊市、田辺市、新宮市)

18:00 避難所において健康調査を実施

## 6月5日（月）

---

- 08:30 日方支所、下津行政局2階で業務開始  
市役所1階に総合相談窓口を設置  
り災証明書発行受付開始  
企業や団体等から支援物資が届けられ始める
- 09:00 災害廃棄物一次集積所（わんぱく公園駐車場）を別院広場へ変更、JAながみね下津選果場跡地は継続
- 11:25 災害時応援協定企業にホームセンター等で不足が見込まれる資材（土のう袋・ゴミ袋・軍手）を発注
- 19:25 災害時応援協定企業より土のう袋・ゴミ袋・軍手の納品
- 19:30 災害救助法の適用決定（適用日：6月2日）【内閣府】

## 6月6日（火）

---

- 08:30 災害廃棄物対応に他自治体による支援開始  
市役所、行政局、各支所・出張所にて土のう袋・ゴミ袋・軍手の配布開始
- 09:40 岡山県倉敷市より支援物資（土のう袋、飲料水、ブルーシート、タオル等）が到着
- 15:50 市指定避難所はすべて閉鎖
- 17:00 地域を限定せず、災害ボランティアの受付開始（海南市災害ボランティアセンター）

## 6月7日（水）

---

- 09:00 他自治体への人的支援（家屋被害調査）の依頼
- 13:00 総合相談窓口の電話回線追加
- 18:00 国土交通省和歌山河川国道事務所に市道の清掃（散水車）を依頼

## 6月8日（木）

---

- 08:30 家屋被害調査に他自治体より応援  
災害見舞金の配布開始  
床上浸水世帯への健康調査開始
- 10:30 散水車により市道の清掃開始【国土交通省和歌山河川国道事務所】

# 令和5年6月29日からの大雨

## 1 気象の概要

6月28日以降、梅雨前線が日本付近に停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で前線の活動が活発となり、各地で大雨となった。6月28日から7月16日までの総降水量は大分県、佐賀県、福岡県で1,200ミリを超えたほか、北海道地方、東北地方、山陰及び九州北部地方（山口県を含む）で7月の平年の月降水量の2倍を超えた地点があった。またこの期間は大気の状態が不安定となり、北日本から西日本の所々で、発達した積乱雲による突風の被害が発生した日があった。

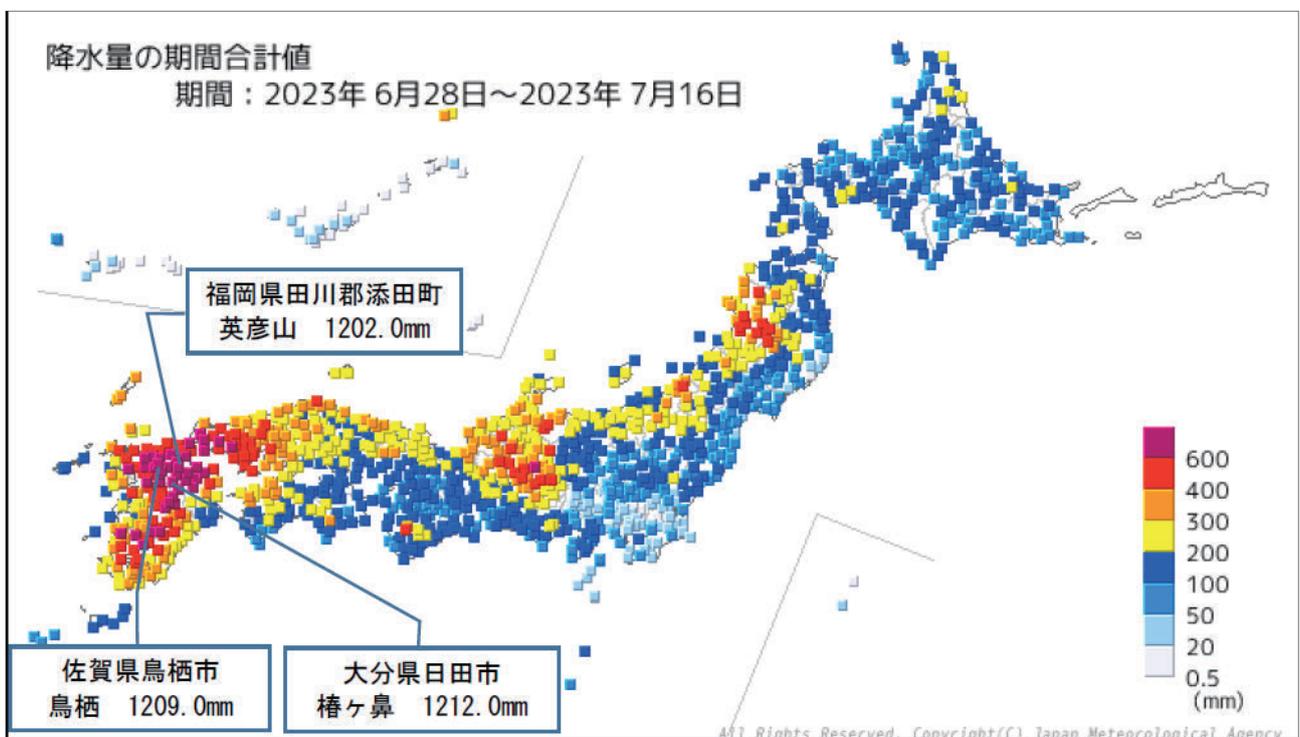
6月28日から7月6日にかけては、上空の寒気の影響もあり、沖縄地方を除いて全国的に大雨となった。1日から3日は山口県や熊本県、奄美地方鹿児島県で線状降水帯が発生した。

7月7日から10日にかけては、九州北部地方や中国地方を中心に大雨となった。8日は島根県で、10日は福岡県、佐賀県、大分県で線状降水帯が発生した。この大雨において、気象庁は10日朝に福岡県と大分県を対象に大雨特別警報を発表した。

7月11日から13日にかけては、北海道付近を低気圧が通過したこともあり、西日本から北日本にかけての広い範囲で大雨となった。12日は石川県及び富山県で線状降水帯が発生した。

7月14日から16日にかけては、東北北部を中心に大雨となった。秋田県では、14日から16日の総降水量が多い所で400ミリを超えるなど秋田県を中心に記録的な大雨となった所があった。

注) 気象庁ホームページ：「災害をもたらした気象事例」（梅雨前線による大雨 令和5年（2023年）6月28日～7月16日）から



(気象庁ホームページから)

## 2 被害の概要

この大雨により、西日本から東日本の広い範囲で河川氾濫、浸水、崖崩れ等が発生した。特に、福岡県久留米市や佐賀県唐津市で複数の住家を巻き込むような崖崩れが発生するなど、九州地方を中心に、死者 13 人、行方不明者 1 人、負傷者 19 人の人的被害が発生した。

【人的被害】死者 13 人、行方不明者 1 人、負傷者 19 人（重傷 10 人、軽傷 9 人）

【住家被害】全壊 63 棟、半壊 907 棟、一部破損 685 棟、床上浸水 1,250 棟、床下浸水 5,005 棟

注）令和 5 年 6 月 29 日からの大雨等による被害及び消防機関等の対応状況（第 34 報）から

## 1 山口市長からのメッセージ

山口市長 伊藤 和貴

## ●オンライン研修翌日の大雨情報に妙な不安感

秘書課長から研修（※）を受けてくださいと指示を受け、オンラインで災害2日前に受講し、非常に効果的でリアルな研修だった。翌日に、気象台から大雨に関する気象情報が出て、研修を受けてすぐに、こういう雲行きになるので、妙な不安感があった。

気象情報のレクを防災危機管理課から受け、それまでは気象情報は関係部署だけに配っていたが、「災害対策本部の本部員や関係職員に配って全員で共有しようや」と言って、庁舎内の情報共有システムのLoGoチャットに流した。

（※）市町村長の災害対応力強化のための研修（総務省消防庁）

## ●深夜の線状降水帯、“すぐ行くのがベスト”と思いつつ、自宅でチャットと電話で指示

この日の夜には特に予定はなかったので、「どっちにしろ家で起きているから、逐一でもいいから直接、電話連絡して」と言って、自宅に帰った。

第2警戒体制に入ると秘書課長が市役所に詰めて、防災危機管理課長と情報交換している。緊急以外は秘書課長から「次はこうなります」と連絡が入り、私から「それで進めてください」と伝えておく。避難情報の発令など、なんらかの判断が必要な際には、防災危機管理課長から直接連絡が入ることになっている。

役所にいる間に、土砂災害警戒情報がでたら、避難指示（警戒レベル4）を出すという腹合わせもしていた。

家に帰った後は、服は防災服のまま、いつでも出られる状態で自分の部屋でスマホを手にテレビを見ていた。秘書課長とは、LoGoチャットと電話でやり取りしっぱなしだった。

本当は本部のそばにいたい。今でも忸怩たるものがある。市役所の出身なので、対応に当たっている秘書課長や防災危機管理課長は長年の仲間がよく知っている。私は職員からのたたき上げなので、みんなのキャラクターも見えていて、ある意味では幸せな人間関係の中で仕事ができている。

役所に行った方がいいが、秘書に負担をかけるし必要な情報を入れてくれるだろうと。私の性格も分かっているから、連絡はくれるだろうとは思っていた。だから、こういうことが許されるが、そばにいないと心配。本当なら、すぐ行くというのがベストだと思っていた。

消防団も、職員も一生懸命、状況確認してくれているし、いま動いても、職員は動いている真っ最中なので、じゃまになってもと、明るくなるのを待った。ただ、その間の時間は長かった。自宅の2階で、一度も横にならず、まんじりともしないで、状況を見ていた。



(山口市提供) LoGo チャット

### ●大きかった LoGo チャットの活用

2年前から、本格導入していた「LoGo チャット」が大きかった。個人のLINEで業務上のやり取りも始まっていて、情報の担当課長が導入したいと言ったので、役所全体のDXとして令和3年度に導入していた。DXでは先進事例で、導入後にはコロナ感染対策でも使っていた。

当初から、災害時に使うことは計画に入っていたが、今回やった災害対策本部を構成する本部員や関係職員に気象情報を共有するなどは、決めていなかった。

常にみんなが見てくれている。仕事のプラットフォームになってくれている。これがなかったら、（災害の恐れがある時に自宅にいて）がまん出来ないと思った。

注：LoGo チャットとは、セキュリティの高い総合行政ネットワーク（LGWAN）とインターネットで使える自治体専用のチャットツールで、スマホからも利用出来るサービス。提供会社によると、2024年2月時点で全国市町村の約8割が導入しており、災害対策本部で情報を共有するトークルームや、被害調査の担当者のトークルーム、災害現場からの写真と位置情報の連絡などで活用されている事例があるという。

### ●初任の社会教育の経験から「現場大事」＝災害対応時も意識変わらず

京都の大学に行き、就職も決まっていたが、地元の山口市役所の採用試験を受けたら合格となり、“長男なので、帰ってこい”となって入庁した。最初の担当は社会教育課で、公民館や婦人会、子ども会のお世話を5年やり、婦人会のネットワーク力はすごいなと感じた。最初の社会教育の経験から、すべて現場が大事だと考えるようになった。

平成3年台風19号では、県内で最大瞬間風速50m/sを超える猛烈な風で、国道や県道沿いの電信柱が軒並み倒れた。当時は人事の係だったが、市役所全体での災害体制が整備されておらず、台風が来る前に慌てて公民館に緊急連絡先の名簿を作って配布したりしていた。

総合政策部次長だった平成21年7月中国・九州北部豪雨の際には、若い職員の交替で、二晩ほど避難所となった体育館に泊まった。「伊藤次長はどこにお住まいか」と聞かれて答えと、「被害がなかったところじゃねえ。自宅に帰れるんでしょ」と言われる。被災者の生の声をずっと聞くと切ない。

平成25年7月の山口・島根の豪雨では、阿東総合支所に現地対策本部を作って職員を派遣したが、災害応急復旧のために、業者発注の見積書と言う話を現地本部でしていたので「どうでもいいから、急いでやってもらえ。お金のことは心配なくていい」と指示した。あとで、業者の支払いがあったときに軋轢もあったようだが、お金はついて回るもの。あとで何とかする。すべて現場が大事だというのは、最初の社会教育の現場経験から変わってない。

### ●新たな開発地域で内水氾らん、宅地開発に課題

内水氾らんの対策はまだ甘かった。生命の危機ではないので、避難基準にしてもなかった。今回の豪雨で新たに内水氾らんをしたのは、(新幹線の駅もある)小郡の隣の地区だった。なぜかとみたら、やはり宅地開発。マンションが林立して、開発圧力が広がって宅地開発が進んだ。その矢先で内水氾らんが発生してしまった。都市開発行政のなかで、内水氾らんリスクについてアナウンスをする作業がいるのだろう。宅地開発に伴い生じる浸水リスクへの対策をなんとかしていかないといけないと考えている。

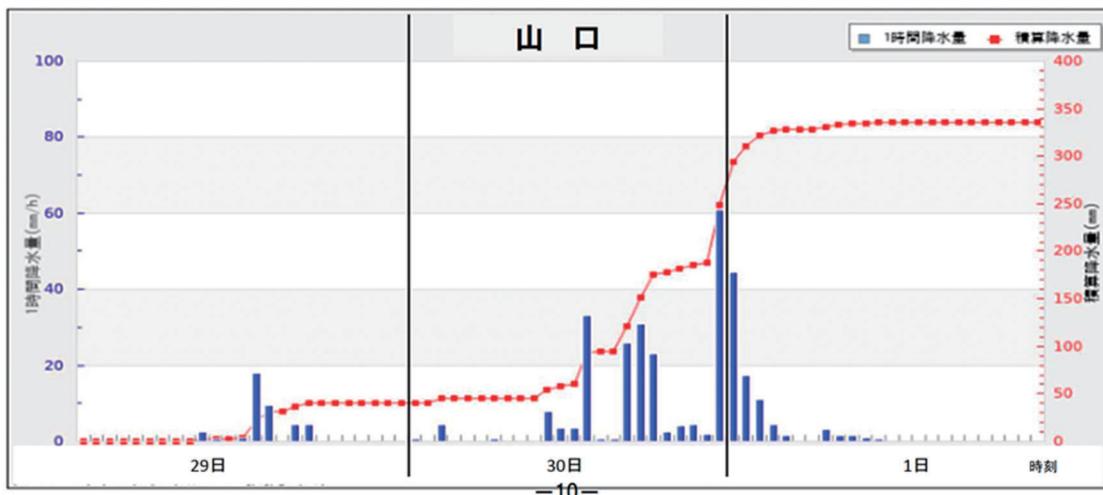
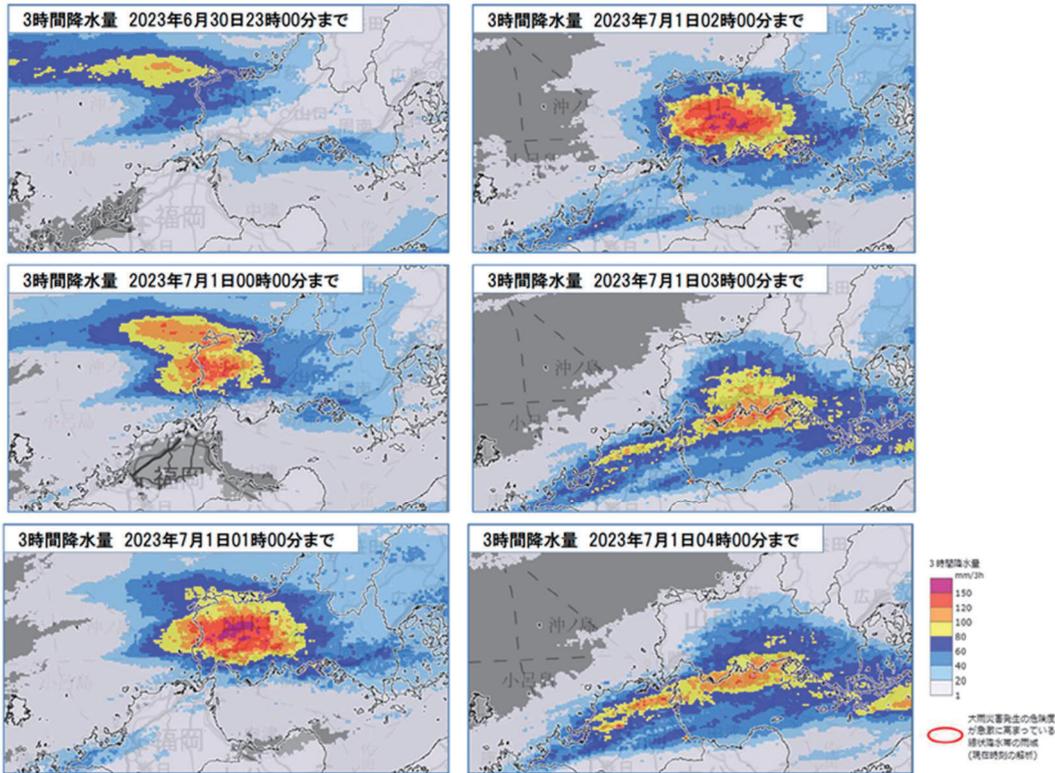
来年の出水期に間に合うよう、補正予算で排水ポンプ4基を整備した。建設中の新しい庁舎では、市長室とその隣に、災害対策本部会議ができる庁議室を置き、筆頭課に防災危機管理課を配置。真上の5階には消防本部を置くよう整備を進めている。

## 2 災害の概要

6月28日から7月6日にかけては、活動の活発な梅雨前線や上空の寒気の影響で、沖縄地方を除いて全国的に大雨となった。1日から3日は山口県や熊本県、鹿児島県(奄美地方)で線状降水帯が発生した。6月28日から7月6日の総降水量は、九州では700ミリを超え、九州北部地方を中心に平年の7月の月降水量を超えた地点があった。

注) 内閣府(令和5年梅雨前線による大雨に係る被害状況等について)から

### 解析雨量 3時間降水量(6月30日23時から7月1日04時 1時間毎)



下関気象台資料

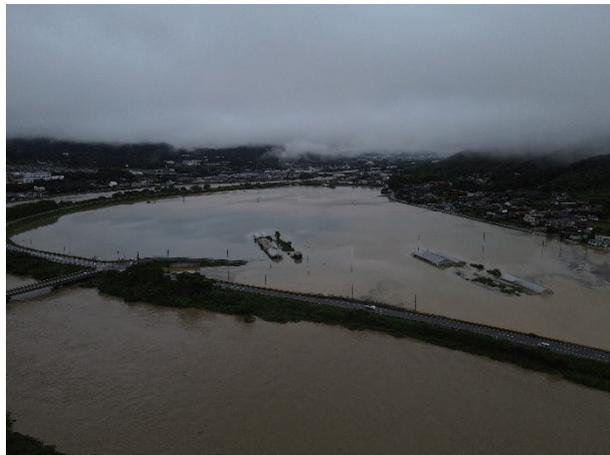
### 3 被害の状況

【人的被害】 死者1人 (令和5年8月14日 14:00)

【住家被害】 半壊1戸 床上浸水196戸 床下浸水479戸 一部破損1戸 (令和5年8月14日 14:00)



小郡新町付近 (山口市提供)



小郡八方原付近 (山口市提供)

### 4 災害の時系列

#### 6月28日(水)

〈市長〉市では、災害対策本部の職員研修で図上訓練を必ずやっていたが、今年は加えて秘書課長から市町村長の研修を受けてくださいと指示があり、たまたまオンラインでこの日に受講していた。再確認事項も多かったが、”マスコミとの対応で最初に何を言いますか”という話とか、非常に効果的でリアルな研修だった。これが非常にためになった。

※(市町村長の災害対応力強化のための研修) 総務省消防庁

#### 6月29日(木)

05:41 落雷と突風に関する山口県気象情報 第1号

11:40 大雨と落雷及び突風に関する山口県気象情報 第2号

〈市長〉研修を受けてすぐに、こういう雲行きになるので、妙な不安感があった。予定外の気象情報のレクを防災危機管理課から受け、「これからの気象の動き次第では何らかの体制に入る」と課長から言われた。それまでは気象情報は関係部署だけに配っていたが、この日は「災害対策本部を構成する全課に配って全員で共有しようや」と。庁舎内の情報共有システムのLoGoチャットがあるので、気象情報が情報更新されたら流そうと、課長と話をした。

16:36 大雨と落雷及び突風に関する山口県気象情報 第3号

〈市長〉この第3号の情報を、LoGoチャットで全員にながした。29日には雨は止んでいたが、気象情報を随時提供していくことで、自然体の動きで第2警戒体制や水防本部、災害対策本部への情報共有になった。これは、すごくよかった。職員の既読が分かるし。

課長には、何時でもいいから電話をしてと言っておいた。

〈市長〉この日は財産区の議会があり、午後は3時から阿東地区で移動市長室の第1回が入っていた。そこまでは1時間から1時間半かかる。連絡を取り合いながら、「移動市長室は警報が出ればやめよう」と言っていたが、そうはなっていなかったため、そこまではこなそうとジャッジをしたのを覚えている。

ただ、気象状況もあるので、警報発表までには市役所に帰ってきていたいと考えていて、1時間ぐらいで切り上げてもらった。

**16:20** 大雨警報（土砂災害）・洪水警報発表 山口市第2警戒体制（大雨洪水警報発表）

〈市長〉（阿東地区から市役所に戻る途中の）長門峡あたりで、警報に移行したという連絡が来た。「雨が強くなったが、ピークは夜かな」と秘書と話をしながら帰ってきた。国道沿いの川の水位はまだ上がっていないと感じた。

第2警戒体制を引いていると報告を受けたときに、次の日に野球大会というスポーツイベントが予定されていたので、実施できるかどうかを確認させ、主催者から中止としていることを確認してもらっていた。

**17:30** 市内に全15箇所あるアンダーパスを順次、通行止め

**17:52** 大雨警報（浸水害）発表

〈市長〉山口市は、海から山まで市域が広い。18時18分に宇部市が「高齢者等避難」の情報を出したので、「南部地域がひどいかな」と思って、秘書課長に「南部の雨がひどいのか」と聞いたら、大雨警報の土砂災害が出ているので山間部中心だと言われた。いつもの水位が上昇しやすいところがあるので確認したら、「氾濫危険水位は越えていますが、いったん雨が落ち着いてきているので、まだ大丈夫のようです」とやり取りしていた。

**19:00頃** 〈市長〉この日の夜には特に予定はなかったため、「どっちにしろ家で起きているから、逐一でもいいから直接、電話連絡して」と言って、自宅に帰った。

第2警戒体制に入ると秘書課長が市役所に詰めて、防災危機管理課長と情報交換している。緊急以外は秘書課長から「次はこうなります」と連絡が入り、私から「それで進めてください」と伝えておく。なんらかの判断が必要な際には、防災危機管理課長から直接連絡が入ることになっている。

役所にいる間に、土砂災害警戒情報がでたら、避難指示（警戒レベル4）を出すという腹合わせもしていた。

家に帰った後は、服は防災服のまま、いつでも出られる状態で自分の部屋でスマホを手にテレビを見ていた。秘書課長とは、LoGoチャットと電話でやり取りしっぱなしだった。

**20:30** 水防本部体制（仁保川の水位上昇）

**21:50** 高齢者等避難情報発令（警戒レベル3）仁保川の浸水想定区域の7,821世帯、17,570人対象

〈市長〉秘書課長がLoGoチャットで、「22時過ぎに土砂災害警戒情報が出されそう。災害対策本部へ移行し、若干時間が遅いが阿東地域に限定の避難指示になりそうな見込み」と、防災危機管理課長とのやりとりを報告してきていた。

**22:35** 土砂災害警戒情報発表、災害対策本部設置、避難指示発令（警戒レベル4）阿東地域の土砂災害警戒区域 821 世帯、1,513 人対象

〈市長〉23時ごろ、防災危機管理課長と電話して「地域を限るのではなく、全域の指示を」という話をした。すぐに出られるようにスタンバイしているとも伝えた。

本当は本部のそばにいたい。今でも忸怩たるものがある。市役所の出身なので、対応に当たっている秘書課長や防災危機管理課長は長年の仲間をよく知っている。だから、こういうことが許されるが、そばにいないと心配。本当なら、すぐ行くというのがベストだと思っていた。

**23:40** 避難指示発令（警戒レベル4）市内全域土砂災害警戒区域 13,041 世帯、26,776 人対象

〈市長〉ホットラインが来る前は、仁保川の堤体が3年前に崩落したことがあったので、その周辺が大丈夫か、気になっていた。

## 7月1日（土）

**00:09** 下関気象台長からホットライン

〈市長〉

気象台長さんからは、「今後、さらに大雨になる可能性があるので気をつけてください」という連絡だった。

このホットラインの直前には、秘書課長との間で、朝一番に災対本部の会議を開くための打合せをしていた。課長からは「調べさせた結果を災対本部会議に」と言ったので「そうじゃない。おおざっぱでもみんなが了知していることを突き合わせて現況把握をし、これから組織としての必要な対策を」というやりとりをした。人的被害がない前提だったが、それで大丈夫だと思っていた。

**00:40** 山口河川国土事務所長からホットライン

〈市長〉河川事務所からは、一級河川の佐波川の状況を伝えていただき、「何かあった時の緊急車両は何なりとってください」と言われた。現場を管轄している事務所長からは、その後、2時間に1度ぐらい情報を共有出来た。県管理河川である仁保川の状況も心配していただいた。

市長になって、ホットラインは初めてだったが、ホットラインの内容は、「この方向で大丈夫だな」という感じだったが、直に繋がっているという安心感があった。

**01:00** 顕著な大雨に関する山口県気象情報（線状降水帯の発生情報）

〈市長〉 前々年の福岡の事例で局所に大雨が集中したこともあり、恐ろしいという思いが走った。真夜中だったので、職員体制、どうしたらいいかと。

私の家の周りは、そんなに激しい雨だという印象は受けていなかったが、山の方はもっとひどい雨になっているな、北部の中国山地のあたりに大雨が来ているなどと思った。

秘書課長が、30分おきぐらいに情報を入れてくれていた。119番も何件入ってきているという連絡は来ていた。

**02:52** 〈市長〉 秘書課長から「夜分に失礼します。市内各地で浸水の被害報告があり、雨水のはげがないため、朝8時半から対策本部会議をやることになったので、8時にお迎えにまいります」と連絡があった。情報共有のボードと地図の写真をロゴチャットで送ってくれていた。

”迎えは午前6時に来い”とは思ったが、「8時でいいよ」と返事をした。役所に行った方がいいが、秘書に負担をかけるし必要な情報を入れてくれるだろうと。私の性格も分かってくれているから、連絡はくれるだろうとは思っていた。

実際、市内にどれだけの被害が発生しているのかは、まだ見えていない。消防団も、職員も一生懸命、状況確認してくれているし、いま動いても、職員は動いている真っ最中なので、じやまになってもと、明るくなるのを待った。

ただ、その間の時間は長かった。自宅の2階で、一度も横にならず、まんじりともしないで、状況を見てた。

**07:16** 〈市長〉 LoGo チャットで避難の状況が送られてきた。茶屋川で車ごと滑落し、消防が救助に向かっているという連絡もあり、いつも浸水する川でなぜと思ったが、その方の無事を祈るしかできなかった。

**08:00 頃** 〈市長〉 秘書課長が直接、車で迎えに来た。副市長の時代からの秘書なので「すまん」と。着いたら、防災危機管理課に行って流れを確認した。床上、床下の浸水が多そうだから、確認の必要があったと思った。上下水道の関係も総出で確認する必要があったと思った。

**08:30** 第1回災害対策本部本部員会議 避難所20施設を開設し、163世帯295人が避難（1日6時時点）。8時半時点で床上浸水10棟、床下浸水17棟、河川越水5箇所（九田川、仁保津川、油川、苜田川、四十八瀬川）など。

〈市長〉 あれだけ排水ポンプも整備し、水門も整備し、浚渫作業も県も我々もやっっているが、これだけの被害が出るのか、それでも足りないのかと思った。雨の降り方のひどさは、今までの常識では対応出来ない。考えられないような時間雨量で、線状降水帯の恐ろしさを実感した。内水氾らんの対策はまだ甘かった。生命の危機ではないので、避難基準にしてもなかった。

上下水道の管理者は市役所同期で、事前の計画にはなかったが、災対本部会議の後に「かなりひどいぞ、技術屋の目から見た方がいいと思う」と指摘してくれたので、都市整備部と連携してやってくれと指示出来た。

浸水実態は、技術屋集団が1週間のローラーで調べてくれた。その後、移動市長室で地域を回ったが、個別の対応へはそんなにクレームはなかった。

## 1 久留米市長からのメッセージ

久留米市長 原口 新五

## ●想定にこだわりすぎず、空振りを恐れず、動画で市民に直接呼びかけ

災害時は想定外のことがものすごく起きる。あまり事前の想定にこだわりすぎず、勇気を持って避難の指示を出すことが最優先だ。久留米市は市域が広く、海に近く潮の影響をうけるところから山の方まで多様な地域がある。今回は市内で災害が同時多発するような状況で、予測が難しかった。そのため「空振り」をおそれず、広めに避難指示を出した。ただし、避難情報発表と解除のタイミングは大事。今回も、一度解除したところで、次の雨がきた。解除していたので、新たな避難情報を発令できた。

避難の呼びかけは、メールやLINEなどの文字情報も大事だが、切迫感が伝わりにくい。今回は「緊急市長メッセージ」の動画を急ぎよ撮影しネットで配信し、私自身が顔を出して見せて安全確保を呼びかけた。「市長が言っているのだから」と受け止めてもらえて、手ごたえを感じた。

## ●治水対策は部局横断的に 学校のプールを使って雨水貯留も

市長に就任して、防災を「いの一番」「一丁目一番地」の公約に掲げてきた。治水対策については、建設部局だけではなく教育部局なども含めた部局横断で進めている。国・県や周辺自治体と連携した流域治水の取組みの中で、地下の雨水貯留施設の建設や田んぼダムなどの取組みも進めているが、一方で、大雨の際に小中学校のプールの水を抜いて雨水を貯留できるようにしている。学校のプールならどこにでもある「小さなダム」だ。

また、普段から部局間で防災情報の共有を行っている。「うちは教育部だから関係ない」「うちは福祉だから関係ない」ではなく、各部の部長級の集まる会議で防災担当部局が話をする。そうすると効いてくると思う。

## ●県や気象台、河川事務所などとの連絡のシミュレーションを

気象台や筑後川河川事務所などからホットラインで情報をもらう予行演習を繰り返してきた。自衛隊の災害派遣要請は、市長が県知事に連絡しなくてはならないが、その確認も行っていった。災害時には、道路が寸断されて河川が氾濫して山が崩れてと、一遍に全部が来る。日頃からこうした連絡のシミュレーションをやっておかないといざという時に判断ができない。

## ●市議会の委員会室を職員の休憩場所に 災对本部の環境整備も重要

災害が長期化する場合は、食料や飲料なども含めた職員の執務環境整備が重要になってくる。私が市長に就任してすぐ、市議会にお願いして本庁舎にある市議会のスペースを災害対応時の職員用仮眠室として使用させていただいた。男女別室で、仮眠用のベッドを用意した。寝ることもできないで対応していたら職員が参りますから。市議会の部屋が使えなければ、市長室を空けるつもりだった。24時間体制で災害対応にあたる職員は、電話では市民からさまざまな要望を言われ、なかなか横にもなれない。災害が起きた現場の復興、復旧はもちろん大事。しかし、災害対策本部の体制作りもしっかり考えてあげないといけない。

また、首長が正確な判断を下すためには、経験豊富な防災担当職員が必要。防災担当の職員は2年や3年の短期で異動させないようにしている。災害時には首長はデータに基づいて迅速に判断をしなくてはならない。防災担当の部署で経験を積んだ職員がデータを分析し「これがこうなってこうだから、今こうした方がいいのではな

いか」と、首長に進言できる、情報を上げられるような体制が大事だ。

### ●被災地の事例を予備知識として蓄える

災害の経験のない首長さんは、こういう事例集などを活用して「うちの地域と似ている」「うちでこういうことが起きたら」と予備知識として持っておいてほうがいい。災害は経験しない方がいいが、経験せずすんでいる地域の首長は、経験した地域の事例をしっかりと読んでおいてほしい。

## 2 災害の概要

7月7日から10日にかけて、中国から対馬海峡付近に停滞する梅雨前線に向かって太平洋高気圧の縁を回る暖かく湿った空気の流れ込みが続いた。この影響で、九州北部地方では前線の活動が活発となり、広い範囲で大雨となった。特に10日未明から昼前にかけて線状降水帯が発生し、福岡県や大分県に大雨特別警報を発表するなど記録的な大雨となった。

7日朝から昼過ぎにかけて、九州北部地方の広い範囲で激しい雨が降り、その後は小康状態となった。8日昼過ぎから再び雨が強まり、9日昼過ぎにかけて断続的に非常に激しい雨が降った。9日夜遅くから10日昼過ぎにかけては、福岡県、佐賀県、大分県で線状降水帯が発生し、猛烈な雨や非常に激しい雨が降った。7月7日から10日にかけての期間降水量は、英彦山(ひこさん)(福岡県)603.5ミリ、久留米市の耳納山(みのうさん)(福岡県)567.0ミリ、朝倉(福岡県)465.0ミリ、耶馬溪(大分県)429.5ミリなど、7月の月降水量(平年)を上回った。

また、英彦山、耳納山など、複数の観測地点で1時間降水量や日降水量の観測史上1位の値を更新するなど、記録的な大雨となった。(福岡管区気象台「災害時気象資料」による)

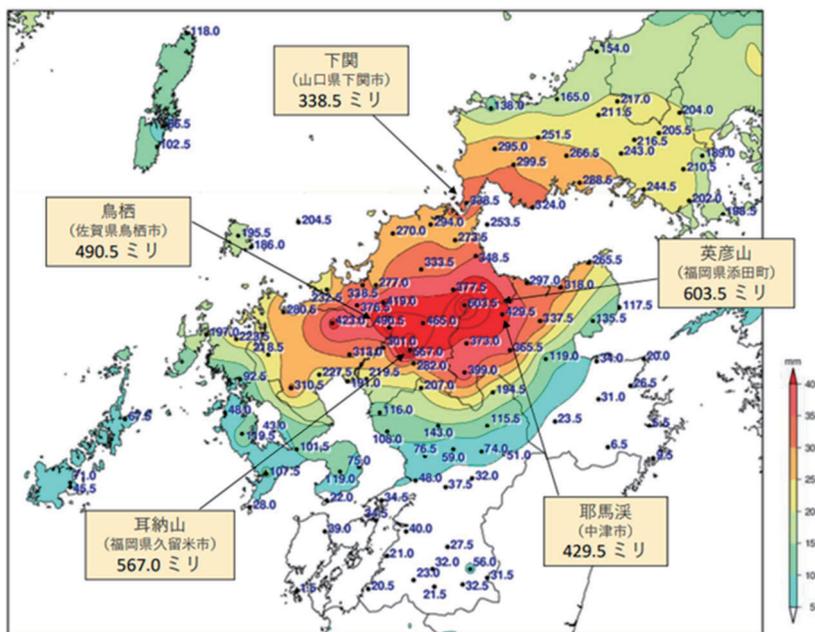


図1 アメダス降水量の分布図(7月7日~7月10日)  
(福岡管区気象台「災害時気象資料」より)

久留米市では7日の朝から雨が降り始め、14日昼ごろから雨が強まった。9日の午前10時までの1時間に、久留米で60ミリ、耳納山で33.5ミリの雨を観測した。10日の未明に北部九州地域に線状降水帯が発生、耳納山では非常に激しい雨が降り続き、1時間降水量(91.5ミリ、24時間降水量402.5ミリ、4日間の総降水量567ミリなど、観測史上最大の値を観測した。

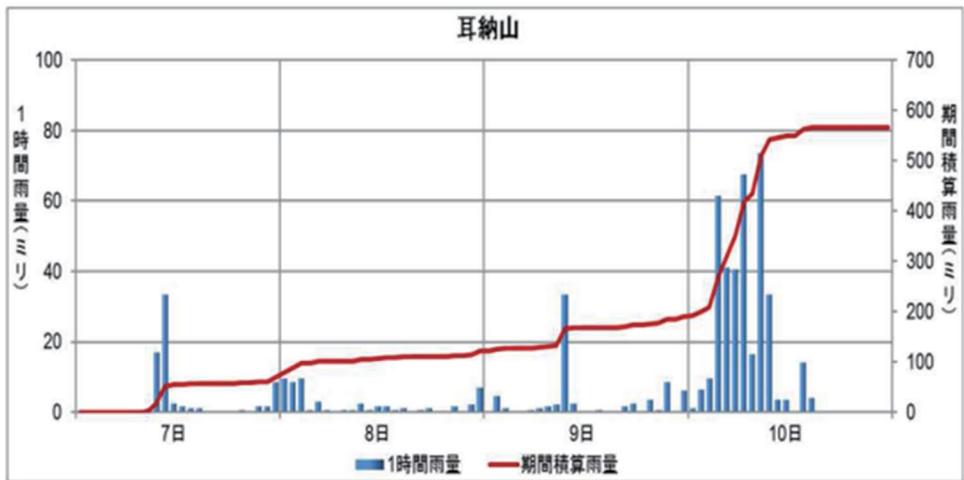


図2 久留米市「耳納山」におけるアメダス降水量の時系列図:7月7日01時~10日24時 (福岡管区気象台「災害時気象資料」より)

福岡管区気象台は、7月10日未明から朝にかけて福岡県内に「顕著な大雨に関する情報」を発表、線状降水帯が発生して非常に激しい雨が同じ場所に降り続けているとして嚴重な警戒を呼びかけた。久留米市には、午前7時30分に「大雨特別警報(浸水害)」を、さらに午前9時30分に「大雨特別警報(土砂災害)」を発表した。

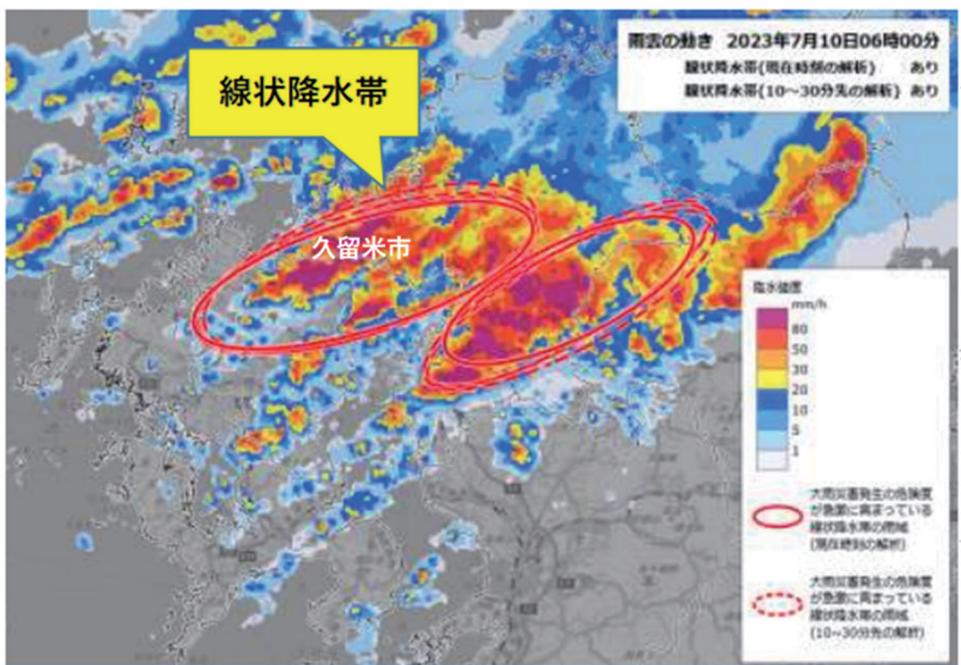


図3 7月10日朝の線状降水帯の発生状況(福岡管区気象台資料に加筆)

久留米市を含む筑後川流域に赤い線状降水帯が東西に広がっている

### 3 被害の状況

- 【人的被害】 死者2人 重傷2人 軽傷3人 (令和5年8月14日14:00)
- 【住家被害】 全壊20戸 半壊328戸 床上浸水902戸 床下浸水1,545戸 一部破損525戸  
(令和5年8月14日14:00)
- 【道路被害】 523件
- 【河川被害】 393件
- 【土砂被害】 24件
- 【農業被害】 745.1ヘクタール(22.8億円)
- 【商工業被害】 236件(13.7億円)
- 【避難者数】 704人(7月10日15時)

久留米市では、7月10日朝に耳納山麓の田主丸町(たぬしまるまち)竹野地区で大規模な土石流が発生した。市内を流れる筑後川が氾濫危険水位に達し、市内の中小12河川で氾濫が発生した。このうち、高良川では濁流が護岸設備を壊し、巨瀬川では堤防を越えた水が住宅地に流れ込んだ。各地で家屋への浸水が発生。北野町や大橋町などでは収穫前の葉物野菜が泥に覆われた。三瀧町(みづままち)でも山ノ井川が越水して付近が冠水するなど、市内各所で被害が出た。



写真1 田主丸町竹野地区の土石流災害の現場(久留米市提供)

### 4 災害の時系列

#### 7月7日(金)

- 14:00 福岡管区气象台と九州地方整備局が大雨について合同記者会見
- 16:30 大雨注意報(土砂)発表 久留米市は情報収集体制をとる  
<市長> 筑後川の上流ではすでに数日前から雨が降っていたので、下流にあたる久留米市では早めに準備をすることができていたと思う。レーダーの画像なども随時チェックしていた。  
気象情報では、何日の何時くらいまで雨が降りそうだという「時間」、それから「雨量」。普段からこの2つに注目してきた。

## 7月8日（土）

17:00 災害警戒本部設置 土砂災害のリスクのある11校区（以下「土砂校区」）に「高齢者等避難」発表

〈市長〉前の日から雨が降っていましたし、高齢者など避難に時間のかかる方も急がずに避難できるよう、この段階で避難情報を発令した。

18:36 洪水注意報発表

## 7月9日（日）

09:43 大雨警報（浸水害）発表

10:26 洪水警報、大雨警報（土砂）発表

14:54 大雨警報（浸水害・土砂）、洪水警報を注意報に切り替え

15:00 「高齢者等避難」解除

〈市長〉一回、雨が少し落ち着いた。緊張感をずっと保つことは難しい。再度、雨が降る予報もあったが、避難情報を出したままでは呼びかけが難しいため、一旦避難情報を解除した。結果的に10日に再度、避難情報を出すことになったが、やっぱり避難情報の出し方、継続、解除の仕方は難しい。9日に自ら直接、筑後川の水位を確認したら、堤防までぎりぎりの状態だった。9日に雨がやんだ時が2、3回あり、それで筑後川の水位も下がった。それがなければ、もっと大きな被害になっていたかもしれない

## 7月10日（月）

00:34 大雨警報（浸水害・土砂）発表

03:42 洪水警報発表

03:45 「避難指示」を発表 対象は北部、東部、中央部

04:00 久留米市に「土砂災害警戒情報」発表

04:50 「顕著な大雨に関する情報（第2号）」発表

04:51 「避難指示」を市内全域に拡大

〈市長〉怖いほどの雨の降り方になってきた。部屋の中にも音がすごい。バタバタバタ、バタバタバタと。ちょっと異常だと感じた。未明に避難指示を出すことになったが、夜中でも出さないと、危険な状況になっていることが市民に伝わらない。寝ているかもしれないし。真っ暗だし体が不自由な方もいるし、逃げられない方もあると思った。でもやっぱり避難情報は出すべきだと考えた。出さずして逃げ遅れるよりも出した方がいい。「また空振りかよ」って言われた方がいい。

06:40 筑後川上流の福岡県朝倉市と東峰村に「記録的短時間大雨情報」発表

07:00 頃 巨瀬川が氾濫（越水）したという情報が入る



写真 2 巨瀬川の氾濫で水没した大橋校区コミュニティセンター付近（久留米市提供）

- 07:16 東部に警戒レベル5「緊急安全確保」を発表
- 07:30 大雨特別警報（浸水害）発表
- 07:34 「緊急安全確保」を市内全校区（土砂災害 11 校区を除く）に拡大
- 09:15 耳納山の 1 時間降水量が観測史上最大の 91.5 ミリに達する
- 09:25 頃 田主丸町竹野地区で大規模な土石流が発生

竹野地区から救助要請

〈市長〉正確な時間はわからないが、発生してすぐ山が崩れたという連絡が私にあった。残念ながら、竹野では 1 人の方が亡くなられた。早く逃げられた方、家の 2 階に上がられた方、垂直避難された方。流されて命は取り留められたけども、重傷を負われた方、いろんな方がおられるが、規模を考えるともっと犠牲者がいても不思議ではなかった。

消防、警察が竹野地区の住民の救助活動を迅速かつ慎重に行った。土石流発生後、怖いのは二次災害。なかなか状況がわからない中で地元の消防団から「現地を確認しに行きましようか」という話があったが、二次災害の恐れがあるので、ダメだと止めた。



図4 土石流発生地点などの位置 (Google Mapに加筆)



写真2 土石流発生現場での救出活動 (久留米市提供)

09:30 大雨特別警報 (土砂)

09:50 筑後川水系の「寺内ダム」が緊急放流 (異常洪水時防災操作) 開始

09:54 土砂災害 11 校区に「緊急安全確保」発表

11:00 「大雨被害にかかる市長緊急メッセージ (手話通訳付き)」を動画で収録。市のウェブサイトアップし、LINE などで周知

〈市長〉筑後川の氾濫の危険性が迫る中、動画で緊急メッセージを出す決めた。文字だけではなく、いかに切迫感を市民に直接伝えるかが大事。事前に準備をしていたわけではなく、「緊急安全確保」を出したあたりから、コメントを考えて、収録して、2時間くらいで。「とにかく逃げてください」という思いを込めた。ただ、過剰に怖がらせないように配慮した

【令和5年7月10日 市長緊急メッセージ（大雨被害にかかる緊急メッセージ）】

ここ数日降り続いた豪雨により、市内ではいくつかの河川がすでに氾濫、または差し迫っており、甚大な被害をもたらす可能性があります。

既に、筑後川上流のダムの放流がなされ、筑後川本川の氾濫の危険性が高まっています。

また、筑後川支川の水門が閉鎖していますが、今後、稼働中のポンプが停止される可能性があり、浸水被害が拡大する恐れがあります。

避難所に避難することがすでに困難・危険という方は、少しでも高い場所へ移動するなどの行動をお願いいたします。

万が一、孤立をされた場合でも、必ず救助に向かいますので、冷静な対応をとらてください。

何よりもご自身と大切な人の命を守る行動を最優先することをお願いいたします。



【動画】

<https://www.city.kurume.fukuoka.jp/1100keikaku/2030mayor/3050message/2023-0710-1106-346.html>

- 11:50 筑後川の片ノ瀬観測所（久留米市）の水位が10.25メートル（観測史上3位）に達するが、氾濫は回避
- 13:30 大雨特別警報（浸水害）解除
- 16:00 第1回災害対策本部会議
- 17:30 大雨特別警報（土砂）解除
- 22:27 洪水警報解除

**7月11日（火）**

- 04:29 洪水注意報解除
- 04:45 土砂災害警戒情報 解除
- 08:31 市内全域「緊急安全確保」解除（土砂校区のみ避難指示へ移行）

- 09:29 大雨警報解除
- 16:00 第2回災害対策本部会議
- 17:00 自主避難所開設（6ヶ所）

#### 7月12日（水）

---

- 11:16 洪水注意報発表
- 11:52 大雨警報（土砂）発表
- 12:05 土砂災害警戒情報発表
- 12:06 土砂校区に「緊急安全確保」発表

〈市長〉12日に再び雨が強まった。片付けに入っている住民もいたが、10日の大雨で地盤も緩んでおり、非常に危険な状態だったため、警戒レベル5「緊急安全確保」を出した。

この日は福岡県知事も一緒に土石流の現場に入る予定だったが、手前の県道のところまででとどめてもらった。

- 14:30 土砂災害警戒情報解除
- 15:22 洪水注意報、大雨警報（土砂）解除
- 16:00 第3回災害対策本部
- 18:10 「緊急安全確保」を解除

## 1 唐津市長からのメッセージ

唐津市長 峰 達郎

## ●市民に避難をお願いするのは出来る限り「陽のある時に」としていた

避難指示や高齢者等避難など、避難のお願いは出来る限り「陽のある時に」を一応ルールにしていた。街灯が少ない集落もあり、夜は足元が暗く、行き慣れた道と言っても側溝に蓋のないところもある。出来るだけ避難をお願いするのは明るい時、日出から日没まで、そういう流れで体制を作っていた。

今回の豪雨では、未明からもの凄い雨と雷となる中、4時39分に気象台が「顕著な大雨に関する情報」（線状降水帯発生情報）を出した。担当者が「6時に避難指示を出します」と言うので「わかった」と了承した。

## ●初めての自衛隊派遣要請 災害救助の受援側として

行方不明者が出る土砂災害だったので、県を通じて初めての自衛隊派遣要請の求めを行った。消防の広域応援も来てくれた。捜索現場周辺で市の職員は交通整理にあたった。現場周辺は道が狭く、入域は周辺住民だけに限った。地元の人たちは公民館で炊き出しを行い、捜索隊から感謝された。応援の隊員たちが休憩の時、日蔭で寝ていたのを見た。リフレッシュする場所も必要と考え、市内の温泉と入浴施設を使ってもらうことにした。

## ●市民に対しては「怒られるくらい情報提供」

情報伝達には10種類のツールを使っている。まず自分のことを守って、そしてお隣さんと情報共有。我々としては怒られるくらい情報提供するしかない。残念だったのは防災ラジオの電源が入っていない人がいたこと。

(メモ) 避難情報を市民に伝える10種類のツール

- ①防災無線 ②防災ラジオ ③市情報メール ④市ホームページ ⑤行政放送(チャンネルからつ)  
⑥FM唐津 ⑦市公式LINE ⑧緊急速報メール ⑨アラート ⑩広報車

また気象警報以上の防災気象情報についても、発表されたら直ちに③④⑤⑥⑦で伝えられる (図4)

## ●同じ市内でも、地区により違う天気

唐津市は487平方キロメートルある。同じ市内でも旧唐津市内と、上場(うわば)と呼ばれる西側(呼子町、鎮西町、肥前町)、下場(したば)と呼ばれる東側(浜玉町、七山)、それに南側(北波多、相知町、厳木町)とでは気象が全く違う。東側は雨でも、西側は好天ということもある。気象台にはこれまでも、地区ごとに分けた情報が欲しいとお願していた。

## ●いざという時に備えて「シミュレーションを徹底的に」

被災経験をした立場から言えるのは「シミュレーションを徹底的に」その一言に尽きる。他の地域で発生した災害が自分の地域で起こった時に、誰がどう動く? どういう資機材が必要? 住民にはどうお願い? 経験してなくてわからないところも多いと思うが、徹底的にシミュレーションをした方が良い。いざ起こった時に敏感に反応するのは相当難しいので。

## 2 災害の概要

福岡管区気象台によると、まず6月29日から7月1日にかけて梅雨前線が九州南部まで南下し、大気の状態が非常に不安定になった。30日未明からは九州及び山口県の広い範囲で断続的に非常に激しい雨や猛烈な雨が降ったが、佐賀県には人的被害・住家被害はなかった。

また、佐賀地方気象台によると、佐賀県では7月7日の朝から局地的に雷を伴った非常に激しい雨や激しい雨が断続的に降り、10日未明から明け方にかけて、唐津市付近と佐賀市付近では1時間に80ミリ以上の猛烈な雨を解析した。さらに、線状降水帯も発生し（図1）、気象台は4時39分に「顕著な大雨に関する気象情報」を発表した。

### 大雨と落雷及び突風に関する佐賀県気象情報 第14号

令和5年7月10日05時14分 佐賀地方気象台発表

佐賀県南部と北部では、線状降水帯による非常に激しい雨が降っています。10日夜遅くまで土砂災害、10日昼前まで低い土地の浸水、10日夕方まで河川の増水や氾濫に厳重に警戒してください。

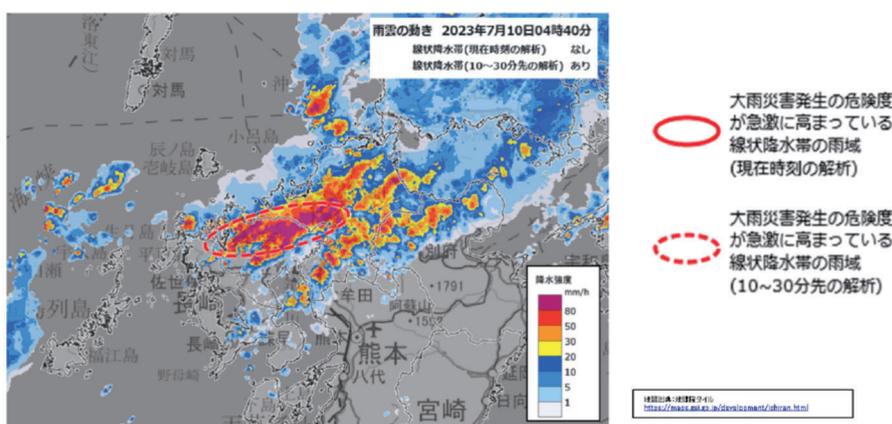


図1 「佐賀県に線状降水帯発生」の位置を示した気象情報

## 3 被害の状況

佐賀県唐津市によると、大雨による被害は市の東部・南部の至る所で起きたほか、西部でも相次いだ（図2）。

浜玉町平原今坂の土砂災害（土石流）は、市の覚知が10日6時14分、地区の裏山が崩壊して土砂が集落に流れ込み、死者3人（70代女性、70歳男性、50代男性）の被害が出た（写真1）。

佐賀県設置の今坂雨量観測所の記録によると、前日9日夜に止んでいた雨が、日付が変わった頃から再び大雨に。土砂災害が発生する直前、午前5時までの1時間には88ミリ、6時までは81ミリと猛烈な雨が続いた。7日から10日までの積算降水量は453ミリで、わずか4日間で7月の月間降水量平均の約1.3倍にもなった。（図3）

【人的被害】死者3人（いずれも浜玉町平原今坂の土砂災害）

【住家被害】全壊3棟



## 4 災害の時系列

### 6月30日（金）

08:35 大雨警報（土砂災害）発表 → 災害情報連絡室 設置（長：危機管理防災課長）  
自主避難場所 12か所

<市長> 気象台によると「今回は長引くかも」ということで、注意のレベルを上げた

### 7月1日（土）

08:00 自主避難場所 閉鎖  
16:12 大雨警報（土砂災害）解除 → 災害情報連絡室 廃止

### 7月2日（月）

02:39 大雨警報（土砂災害）発表 → 災害情報連絡室 設置  
07:45 洪水警報 発表  
08:05 土砂災害警戒情報 発表  
  
11:00 土砂災害警戒情報 解除  
13:01 洪水警報 解除  
16:09 大雨警報（土砂災害）解除 → 災害情報連絡室 廃止

### 7月7日（金）

14:00 九州地方整備局・福岡管区気象台 合同発表 「10日頃にかけての前線に伴う大雨について」  
断続的に雷を伴った非常に激しい雨や激しい雨 土砂災害警戒情報を発表する可能性も  
これまでの雨により、河川水位は上昇しやすく、土砂災害リスクも高まっている状況

### 7月8日（土）

06:27 大雨警報（土砂災害）発表 → 災害情報連絡室 設置  
  
15:00 災害警戒本部 設置（長：総務部長）  
【警戒レベル3】高齢者等避難 発令  
（対象）市内全域(51,185世帯 117,257人)の土砂災害警戒区域  
自主避難場所 22か所  
15:10 土砂災害警戒情報 発表

<市長> 避難のお願いは出来る限り「陽のある時に」を一応ルールにしていた。街灯が少ない集落もあり、夜は足元が暗く、行き慣れた道と言っても側溝に蓋のないところもある。出来るだけ避難のお願いするのは明るい時、日出から日没まで、そういう流れで体制を作っていた。

## 7月9日（日）

- 11:00 土砂災害警戒情報 解除
- 12:00 災害情報連絡室 設置  
【警戒レベル3】高齢者等避難 解除  
自主避難場所 12か所（規模縮小）
- 15:30 自主避難場所 閉鎖

<市長> 雨は小康状態になり、だんだん天気も回復。しばらくここで収まる感覚もあったので、状況見守ろうと。気象台の土壌雨量指数がなかなか消えないのは心配だった。

## 7月10日（月）

- 00:40 土砂災害警戒情報 発表
- 01:04 洪水警報 発表

<市長> 自宅にいたら、雨だけではなくて雷がすごかった。ちょっとまずい、情報が違い過ぎる。寝れない夜に変わった。市の災害情報端末を使って、川の水位やライブカメラで雨の降り方などの状況を把握した。

- 04:39 顕著な大雨に関する佐賀県気象情報 発表 ※線状降水帯発生情報※

### 顕著な大雨に関する佐賀県気象情報 第1号

令和5年7月10日04時39分 佐賀地方気象台発表

（見出し）

佐賀県南部、北部では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。

<市長> 既に玉島川（2級河川）が氾濫危険水位に達し、警戒していたが、土砂災害に人が巻き込まれるという危機感はなかった。そこに線状降水帯の情報が出た。担当者が「6時に避難指示を出します」と言うので「わかった」と了承した。夜明けになったら直ぐ警戒レベル4の避難指示を出そうということで構えていた。  
あまりにも雨音が異常だったが、真っ暗で状況つかめず、手の出しようがなかった。

- 06:00 災害対策本部 設置（長：市長）  
【警戒レベル4】避難指示 発令 （対象）市内全域の土砂災害警戒区域、浸水想定区域  
1次避難場所 22か所

**浜玉町平原今坂で土砂災害（土石流） 住民3人死亡**

死亡したのは倒壊家屋に住んでいた70代女性、隣に住む70歳男性と50代男性  
男性2人については「川の前に立っていたのを見た」という証言がある  
川へ出る手前に倒壊家屋があり「家にひとりだった女性を気にしたのかも」と話す人も

(写真2、3)



写真2 浜玉町平原今坂の被災現場  
(唐津市提供資料)

写真左の屋根の家屋で70代女性死亡  
屋根部分は写真奥から押し流された



写真3 写真奥の赤い屋根の家屋が  
死亡男性2人の住居  
今坂川まで出てくる途中に  
死亡女性の家があった  
(写真3は令和5年11月撮影)

06:14 浜玉町平原から119番通報

「地鳴りがあって土砂崩れ」「家屋が潰れているの見える」

06:42 浜玉町平原今坂から119番通報

06:55 「裏山が潰れた」「家の中に2人 脱出試みている」

「家の前の庭の土砂をどかして欲しい 親と夫がいなくなっている」

<市長> 「地すべりで家が流されてる 行方不明者が出ている状況」ということで、これは今  
度は違うぞ、いままでとは違うぞ、と判断した。行方不明者が出たのであれば、自衛  
隊への要請だろうと考えた。

09:00 市長から佐賀県知事に対し自衛隊派遣の要請を求めた (表1)

09:59 佐賀県常備消防相互応援協定に基づき、唐津市消防本部から県内他消防に応援要請 (表1)

<市長> 現場に行ったら、国土交通省のTEC-Doctor(学識経験者)に会えた。「ここは砂と  
大きな石で形成された山で、雨が続くと今回より上の方も滑る可能性があるので、捜  
索や復旧作業には十分な注意を」とアドバイスを受けた。

14時過ぎ 倒壊家屋から70代女性発見 死亡確認

17:00 洪水警報 解除

18:00 【警戒レベル4】避難指示 一部解除

●避難指示継続) 浜玉、巖来、相知、北波多、七山の5地区

○避難場所 5か所

機関名 日時	唐津消防	県内消防	警察	自衛隊	消防団	日本レスキュー 協会他	合計
7月10日	37	34	38	0	164	0	273
7月11日	43	72	40	42	94	5	296
7月12日	23	32	42	48	52	3	200
7月13日	28	92	47	41	40	3	251
7月14日	24	46	47	30	47	0	194

表1 浜玉町平原今坂の救助活動態勢

唐津市では連日、現場直近の現地対策本部に危機管理防災課の同じ職員1名を派遣  
現場から離れた市役所内の災害対策本部に救助活動状況を逐一連絡した  
また日々交代する応援部隊には、この市職員が現場のアドバイザー的存在だったという

### 7月11日(火)

07:10 土砂災害警戒情報 解除

10:45 大雨警報(土砂災害) 解除

【警戒レベル4】避難指示 一部解除

避難指示継続) 相知町牟田部の一部、浜玉町平原今坂地区

避難場所 2か所

10:50頃 佐賀県消防防災ヘリ 唐津市・玉島川河口付近で遺体発見 行方不明の70歳男性と判明  
死者2人に

17:00 【警戒レベル4】避難指示 一部解除 避難指示継続) 浜玉町平原今坂地区

避難所 1か所

### 7月13日(木)

15:15頃 水産庁の船が北九州市沖で遺体発見、門司海上保安部が収容

→翌14日、佐賀県「遺体は、今坂地区で行方不明の50代男性」と発表 死者3人に

7月14日(金)

佐賀県 被災現場に雨量計・土石流センサーを設置

→ 17日、唐津市から今坂地区に対し「新しい避難体制」説明会

避難所(浜玉公民館、地区から約7キロメートル)より近い平原小学校(地区から1キロ超)

へ住民判断で避難することも可能に (写真4、5)



写真4 今坂地区の中心部  
写真右が今坂公民館  
写真奥が被災現場

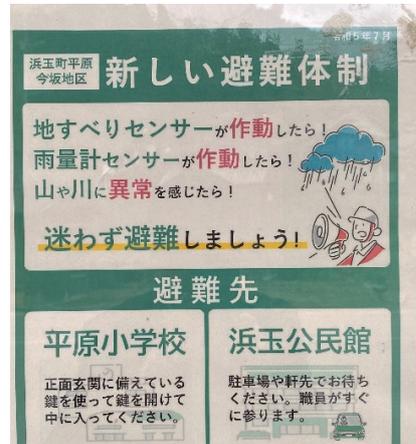


写真5 今坂公民館に掲示された  
「令和5年7月 浜玉町平原今坂地区  
新しい避難体制」  
(写真4・5とも令和5年11月撮影)

7月18日(火)

14:00 災害対策本部 廃止 → 災害情報連絡室 設置

15:00 【警戒レベル4】避難指示 全解除

9月5日(火)

14:00 避難所 閉鎖 → 災害情報連絡室 廃止



図4 市報からつ 令和5年9月号より

## 1 津幡町長からのメッセージ

津幡町長 矢田 富郎

## ●夜間に短時間で発生した「集中豪雨」、あと2～3時間降り続いたら更に大きな被害が出ていた

今回は、夜中の3時間ほどのうちに雨が急激に降って短時間に被害が広がった。雨が降っているときは、このあとどうなるか分からない。それに、真っ暗な中でどれだけ山が崩れているか、川の水がどれだけ増えているかも、離れたところはなかなか分からない。暗い中を職員に見てこいというわけにはいかない。

今回はそこで治まってくれたが、あと、2時間～3時間、雨が続けばもっと大変だったと思う。あそこのものをここに置いておけば良かったという程度のものではない。それを考えればぞっとする。

幸いにして、死傷者がいなかったのは、大きな災害だったわりにはこの上のない喜びだった。

## ●59年ぶりの大雨災害で経験がなかったことも大きかった

津幡町は毎年災害が発生するようなことはなく、今回は59年ぶりの水害だった。59年前のことは、今70歳を過ぎた人が知っている程度。それも当時、被害に遭ったところに住んでいる地域の人が分かるぐらいで、被害に遭ってない人は災害がどんなものか分からないと思う。

私は小学生の頃に経験したが、今になって私にそんなことが起きるとは思っていなかった。

他の地域の人の話に耳を傾けなかったわけではないが、自分のこととは思ってなかった。

職員は今回が初めての経験だった。職員を誉めてはいけないのかもしれないが、いろんなところで津幡町の職員は良い仕事をしてくれたと言われるので、信頼すべき職員がいることは大変ありがたい。

## ●他の自治体との応援協定の存在は大きかった

他の自治体からの応援はありがたかった。協定を結んでいた和歌山県の町は、どこよりも早く、こちらからお願いしますと言う前に来てくれた。第1陣が来て、明るく日には第2陣も来た。そのあと、近隣の県内自治体が来てくれ、最初は災害ごみの受付の現場に行ってもらい、2回目以降は現地確認等をお願いした。間違いなく事前の相互応援協定はありがたい。県内でも4つの市町と協定を結んでいる。

相互応援協定はいろいろなところの方と、環境の違う市町と結んでおく悪いことはない。多ければ良いと言うことはないが、いろんな意味で助けていただいたのはありがたかった。

## ●職員がいろいろな業務を経験しておくことは重要と再認識

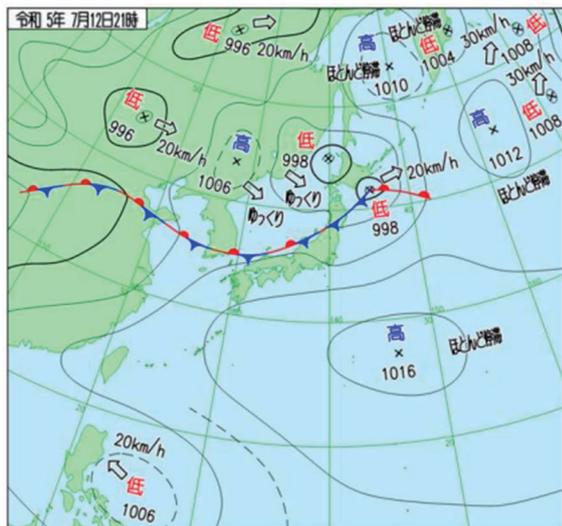
土砂崩れなどの1,200カ所もの災害査定は担当課だけでは手が回らないのが実情。県内に支援をしてもらったが手が足りない。過去にそこ（担当課）にいた人間、元担当職員にも手伝ってもらった。定期的に職員を異動させて、いろいろな業務に精通するようになっておくことが大事だと感じた。

## ●メディアへの対応は、度重なる電話攻勢に備えを

マスコミは夜間に来た人はいなかったが、各社が別々に電話してくる。次から次へと電話をしてきて、同じことを言わないといけないので、職員が対応するのが大変だった。全て総務課長が対応していた。

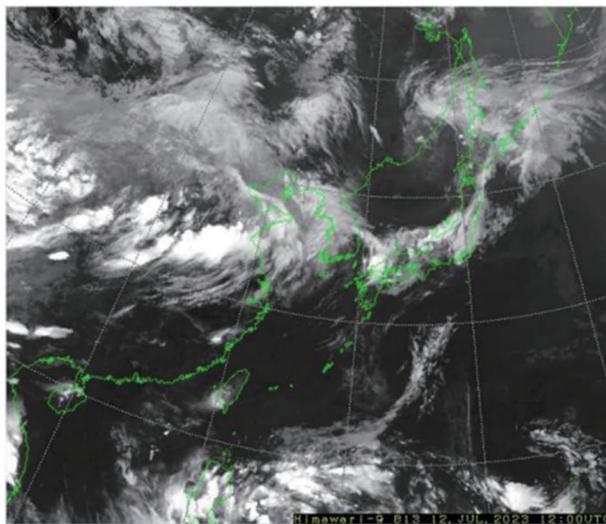
## 2 災害の概要

日本海から東北地方へのびる梅雨前線が7月12日から13日にかけて北陸地方をゆっくり南下した。また、日本の南に中心を持つ高気圧の縁に沿って暖かく湿った空気が梅雨前線に向かって流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となり、石川県では記録的な大雨となった。特に、かほく市、津幡町、内灘町付近では猛烈な雨が降り、12日21時39分には線状降水帯の雨域が解析され、大雨災害発生の危険度が急激に高まっているとして「顕著な大雨に関する石川県気象情報（第1号）」が発表された。



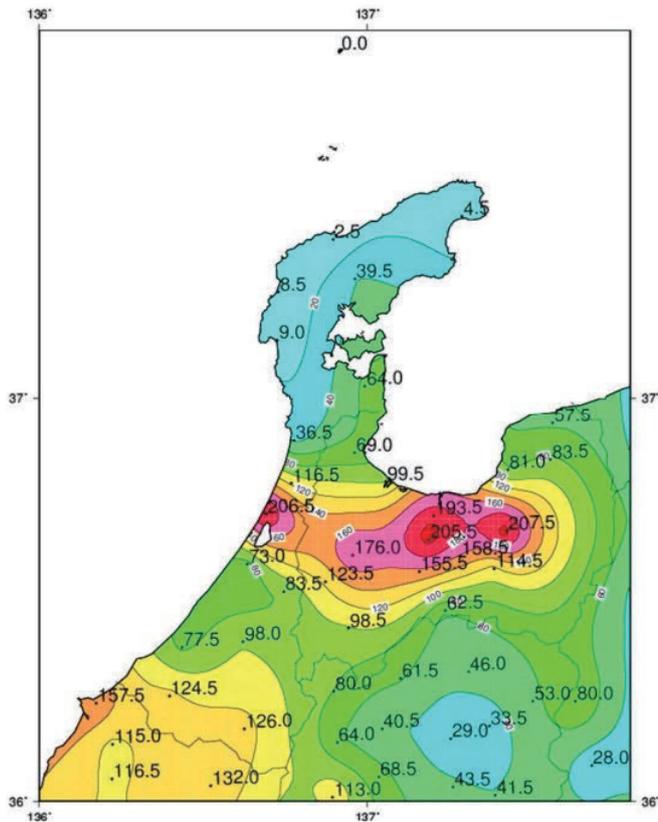
地上天気図 (7月12日21時)

(気象庁資料から)



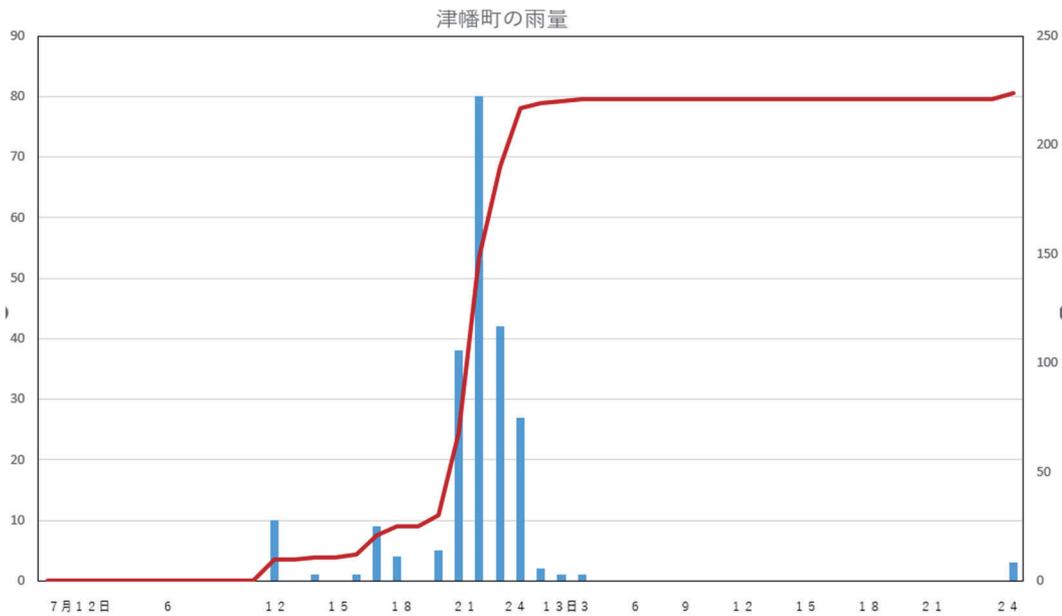
気象衛星赤外面像 (7月12日21時)

津幡町に石川県が設置している雨量計（観測点・津幡土木）では12日22時に60分間最大雨量で81ミリを観測し、7月13日3時までの24時間降水量は221ミリに達した。また津幡町に近いアメダス観測点の「かほく」では統計開始以来1位となる、日最大1時間降水量85.5ミリ（12日22時45分）を観測した。



アメダス降水量 (mm)  
 0 20 40 60 80 100 120 140 160 180 200

アメダス積算降水量分布図  
 (24時間)  
 (7月12日09時から7月13日09時)  
 (気象庁資料から)



石川県設置の雨量計データ (観測点：津幡土木)

津幡町では、12日夜遅くのごく短い時間の間に集中した大雨となり、町内の広い範囲で浸水被害が発生。夜間だったが7,000人を超える町民を対象に避難指示を発令した。町内の221世帯で断水が発生するなど、住民生活にも大きな影響が出た。

いったん雨は収まったものの14日には、2021年に決壊した後に工事待ちとなっていたため池が再び決壊するおそれがあったため、付近の5世帯に避難指示を発令することになった。

### 3 被害の状況

【住家被害】 半壊2棟、床上浸水136棟、床下浸水278棟、一部破損9棟 計425棟

(令和5年6月29日からの大雨等による被害及び消防機関等の対応状況(第32報))

【避難状況】 合計は25世帯、52人 (4か所に避難所を開設)

【その他】 上水道: 停電による送水タンクの停止で10地区の221世帯で断水が発生

歴史公園 1か所・農地 416か所・農業用施設 625か所・ため池ほか 56か所・

林道 100か所・教育・文化施設 7か所・福祉施設 1か所・その他町有地 3か所で被害が発生

### 4 災害の時系列

#### 7月11日(火)

20:53 大雨注意報

23:43 大雨注意報解除

#### 7月12日(水)

20:04 大雨注意報

20:23 大雨警報(土砂災害)

洪水注意報

20:49 金沢地方気象台からホットライン①

(矢田町長) この頃には必ず気象台の台長から何度も電話で、「もうすぐ大雨警報に変わります」とか、「土砂災害警戒情報を出します」と情報をいただき、刻々と伝わってきておりました。

20:54 大雨警報(土砂災害・浸水害)

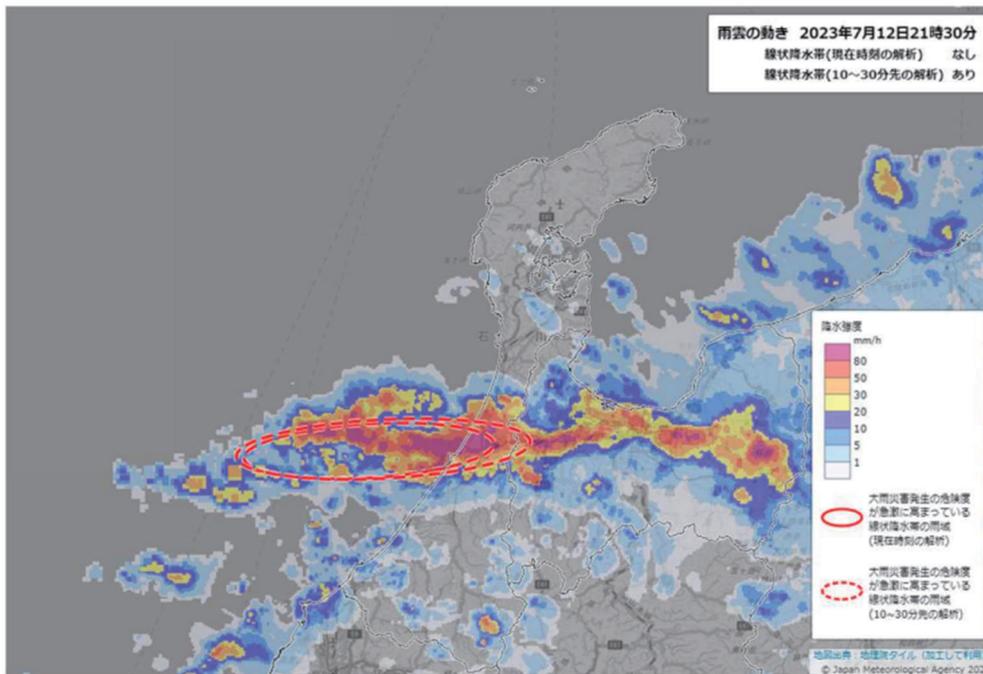
洪水警報

(矢田町長) 事前に気象台長から大きな雨になるという情報をもらっていたので、役場に出てきました。その時には雨は降っていたけど、さほど大きくなく、あんなことになるとは思っていませんでした。

21:25 土砂災害警戒情報

21:39 線状降水帯が発生

※顕著な大雨に関する石川県気象情報 第1号



雨雲の動き (2023年7月12日21時30分)

(気象庁資料から)

(矢田町長) 線状降水帯と言われたのが、21時半過ぎ、それからが凄かった。徐々に情報が地元から入ってきて、どこそで土砂崩れとかいう書き込みをホワイトボードに職員が書いていたが、あっという間にホワイトボードがいっぱいになってしまいました。

## 22 : 00 津幡町災害対策本部設置

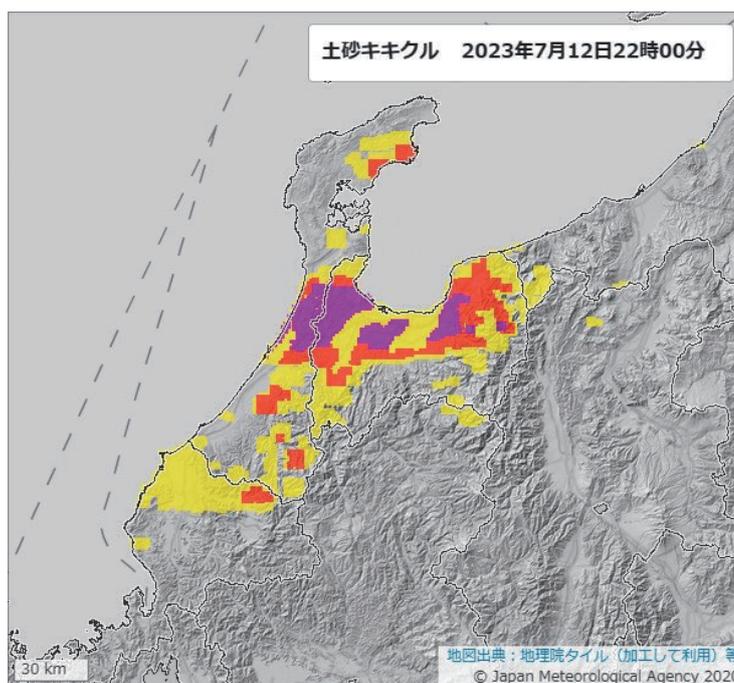
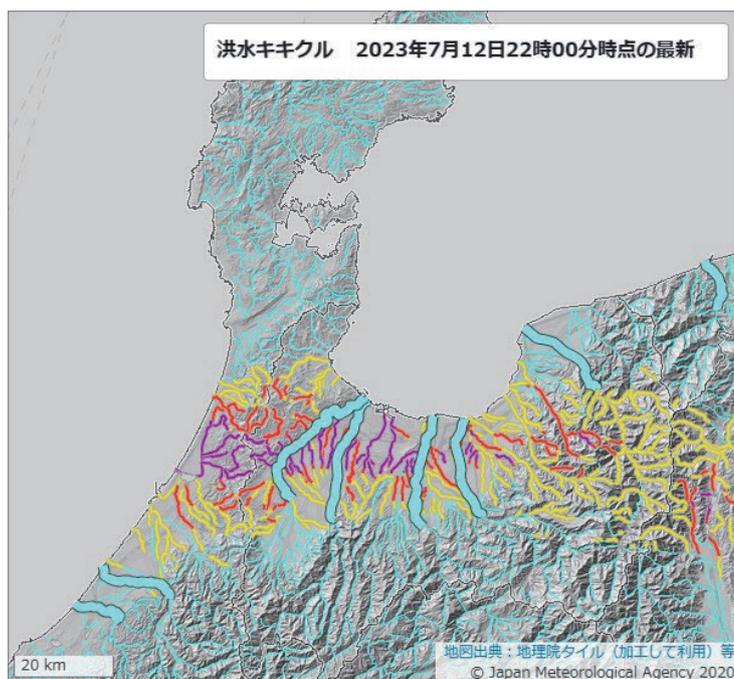
### 避難指示発令

(英田地区の 1,652 世帯 4,333 人、笠谷地区の 633 世帯 1,684 人、萩坂地区の 438 世帯 1,092 人、合わせて 2,723 世帯 7,109 人)

(矢田町長) 被害がポツンポツンと出ていたうえ、雨は線状降水帯もできてかなりの量になっていたの、土砂災害と川の氾濫を警戒して避難指示を出しました。

津幡町は 59 年間まったく被害がなかったのを考えてもみなかったのですが、気象台長からの気象情報を刻々と知らせる電話や、国交省の事務所長からも何度も電話をいただき、連続雨量 180 ミリで通行止めになる国道の倶利伽羅トンネルもまもなく通行止めの可能性があるという連絡もありました。

暗い夜の避難指示は危険を伴うもので、下手に移動をしようとして途中の二次災害の恐れもあるが、この際、やろうじゃないかとなったので避難指示となりました。



（気象庁 HP キキクルから）

（矢田町長） 私の家の付近も、水位が上がると水が浸く場所だったのですが、夜 10 時過ぎぐらいから、妻から LINE で写真が送られてきました。

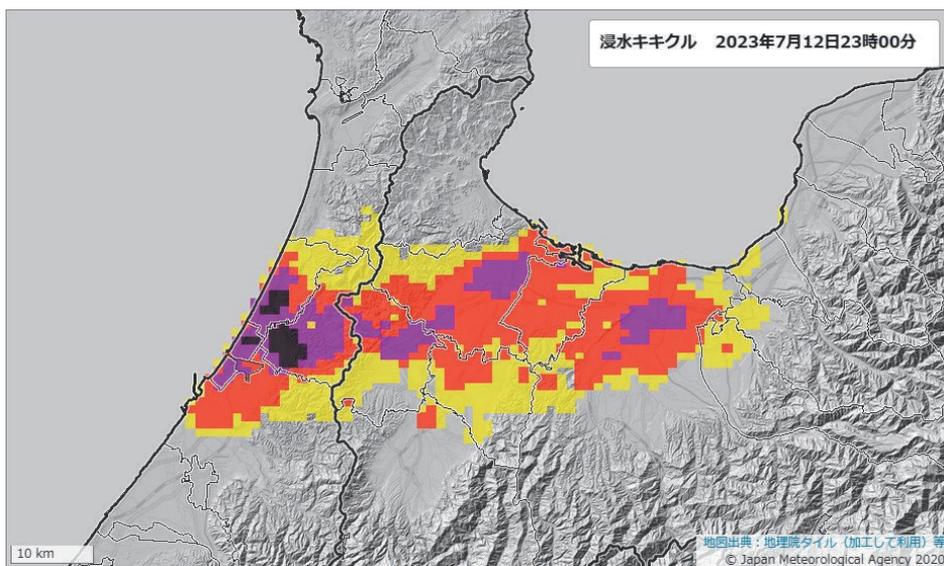
60 年前には洪水で我が家も床上浸水したことがあって、当時は年に 2、3 回も浸水していたのですが、昭和 30 年代に河川改修が行われ、それ以降、津幡町では洪水はありませんでした。今回の水害は実に 59 年ぶりの災害となったのです。



能瀬川（津幡町中山） 22:25 現在



※能瀬川の平常時の様子 （国交省・川の防災情報 HP から）



（気象庁 HP キキクルから）

23 : 14 金沢地方気象台からホットライン②

7月13日(木)

0:00～ 避難所4か所を開設

0:30 (条南コミュニティプラザ、英田コミュニティプラザ、萩野台コミュニティプラザ)

※当初予定の6か所のうち、刈安コミュニティプラザは施設そのものが既に被災しており、笠野公民館は道路が土砂崩れにより寸断され、避難所を開設するために向かった職員がたどり着けないという状況で開設を断念した。



浸水した津幡町清水地区の様子（写真：津幡町提供）

1:55 大雨警報（土砂災害）※浸水が外れる

(矢田町長) 小ぶりになってきたので、車で町内の走れるところをみてきましたが、道路で行ける場所は雨で浸かかってしまっていて、国道もどうにもならない状況でした。至る所で行けなくなる。この時には傘は差してはいませんでした。秋田のような3日も、4日も雨が続くということになると、町中全部が水浸しになっていたでしょうが、今回は3時間ぐらいと短時間だったのが結果的にはありがたかった。

夜中の12時ごろには、どうなっているか自分の家まで見に行ったのですが、家から20-30mのところまで水が膝まであって長ぐつでは行けなくて役場まで帰ってきました。

その後、夜中の2時半ごろには家に帰れました。割と短い時間で水は引いていきました。結局、我が家はあと10センチぐらいで床上浸水になったのですが、それで収まりました。

4:25 洪水注意報に切り替え

7:00 土砂災害警戒情報解除

7:41 洪水注意報解除

(矢田町長) 夜間にも土砂が崩れて道が通れなくなったと言う話は何カ所もありました。明るくなってからはすごいことになっているということが分かったところが何カ所もありました。夜のうちは、特に見回りの指示は出していません。結局、町内で 1,200 ヶ所もの土砂崩れが起きていました。



津幡町九折地区の道路の崩落現場の様子 (写真：津幡町提供)

10 : 29 大雨注意報に切り替え

12 : 00 避難指示を解除

災害対策本部を災害警戒本部へ切りかえ

## 7月14日(金)

9 : 00 頃 笠池ヶ原地区の区長から連絡

「前日までの豪雨の影響でため池・新三郎池に大量の水が流入し、満水になっている」

17 : 10 津幡町災害対策本部設置

ため池の下流にある鳥屋尾地区を対象に避難指示を発表 (対象 : 5世帯 18人)

笠野公民館を避難所として開設

※当日は夜にも雨が降る予報だったが、結果としては雨量は少なかった。

※新三郎池は、2021年に崩落した堤体の改修工事に県が着手するところで、堤体は損壊したままとなっていた。普段は水を抜いた状態だったが、前日までの豪雨で水が溜まり、また上流部からの流入もあり、ため池を守る保護マットが一部損壊し、その部分から水が流出した。

7月15日(土)

---

8:00 鳥屋尾地区の避難指示を解除

災害対策本部を災害警戒本部に切りかえ

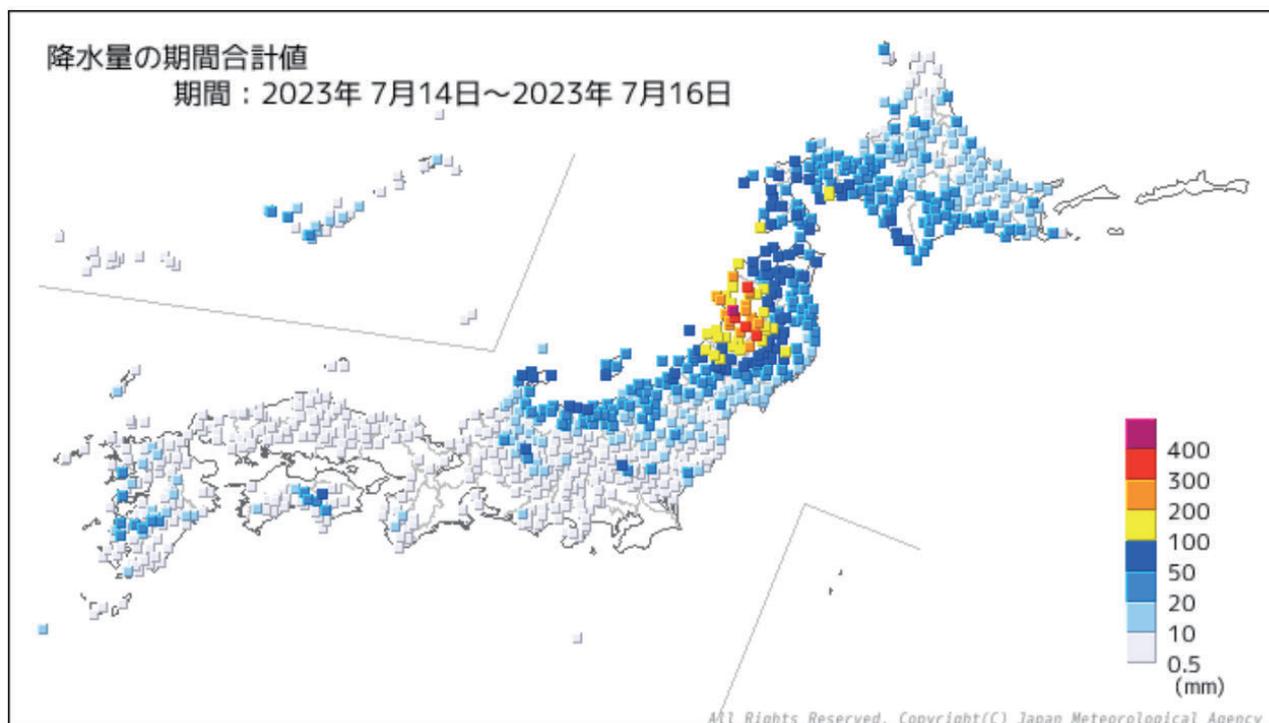
# 令和5年7月15日からの大雨

## 1 気象の概要

7月14日から16日にかけては東北地方に梅雨前線が停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、前線の活動が活発となり、東北地方の北部を中心に大雨となった。秋田県の複数の地点で、24時間降水量が観測史上1位の値を更新したほか、総降水量は秋田県の多い所で400ミリを超え、秋田県や青森県では平年の7月の月降水量を大きく上回る記録的な大雨となった所があった。

また、7月18日から19日にかけても前線の活動が活発となり、岩手県や秋田県で日降水量が100ミリを超える大雨となった所があった。

注) 内閣府ホームページ：「令和5年7月15日からの梅雨前線による大雨に関する被害状況等について」（令和5年7月25日）から



(気象庁ホームページから)

## 2 被害の概要

この記録的な大雨により、東北地方を中心に河川氾濫、浸水、崖崩れ等が発生し、秋田県で死者1人、負傷者5人の人的被害が発生した。

また、秋田県秋田市においては市街地が広範囲にわたって浸水するなど、住家被害については、計7,020棟となっている（令和6年3月6日現在）。

【人的被害】死者1人、負傷者5人（重傷1人、軽傷4人）

【住家被害】全壊11棟、半壊2,885棟、一部破損27棟、床上浸水742棟、床下浸水3,355棟

注) 令和5年7月15日からの大雨による被害及び消防機関等の対応状況（第23報）から



(五城目町消防本部提供)

## 1 五城目町長からのメッセージ

五城目町長 渡邊 彦兵衛

## ● 1対1研修(※)で災害対応を身につけた

2017年から18年にかけて、4回の水害があり、馬場目川も洪水となった。床上浸水となった住民の方の生々しい状況を見て、対策をしないといけないと思った。本当は、どたばたしてはいけないのだが、当時はすぐ現場を見に行ったりしてしまっていた。

トップセミナーを受講したり研修を受けたりして、自分の啓蒙に努めてきた。なかでも経験した首長の講演や講習より、1対1研修(※)のほうが身についた。現実に対応すべきことを、これはどうだ、これはどうだと問われて、非常に勉強になった。まだ避難所は開設していないが避難指示をどうするかとか、どんどん質問が来るのに、即座に答えられない自分が歯がゆい。

研修でいただいた名刺大のカードを、いつも持ち歩き、カードを見て思い出す。「最初は人命救助」、「避難の情報は空振りを恐れるな」、「早期に防災体制を整備する」とか。いまは、現場へは直行しなくなった。

いちばん大変なのは夜に雨が降ること。明るいうちに避難を徹底するようにした。夜より安全なのは明るいうちにと、いまはまったく迷わない。

(※)「市町村長の災害対応力強化のための研修」総務省消防庁

## 【電話対応】確認・指示ポイント

- 災害対策本部の設置を了承したか。
- 災害対策本部の設置時刻の指示又は確認を行ったか。
- 土曜日の警戒本部の設置について指示又は確認したか。
- 自分が戻るまでの「代理者」の確認(第1順位～第3順位)、指示、念押しを行ったか。
- 代理者の周知を指示したか。
- 状況の変化に応じて早めの避難勧告・指示を行うよう指示したか。
- 特に夜間に大雨が降る可能性がある場合、早めに避難所を開けるよう指示したか。
- テレビ、ラジオ、防災システムなどを通じて情報を常時、継続的に収集するように指示したか。
- 上流部市町村の対応状況を確認し、今後洪水等のおそれがある場合に2市に伝達してもらうよう指示したか。
- 適時、気象台、河川事務所、ダム事務所などから情報を得るように指示したか。

## ● 体制整い担当者も住民も即応＝今回の検証も官民で行い計画見直しへ

2018年の時の体制と、今の体制は、数段、整っている。避難所の設定とかも、指示をしたときにすぐに動ける。無線でもすぐにやれる。自ら危機感を持って対処している。避難所開設時に、何を持っていくか。初期の住民を守るための体制が早い。ボランティアのことや受援体制も。担当は、セオリー通り、やってくれている。すごいと思う。行政マンとしては当たり前のことだが。

住民の自主防災組織も訓練をしていて、防災リーダーが地域でまちの訓練もやってくれている。今回の災害の検証も、役場の検証と、住民の方々の災害の検証を、町内の代表を集めてワークショップをして、それを踏まえて防災計画の見直しをしようと考えている。

●街道沿いの朝市から発展した五城目町＝旧市街地に浸水の言い伝えなく

五城目町は昔の街道に沿った交通の要衝で、朝市が500年以上続く歴史があり、家業の15代続く酒造会社もそこにある。市街地はそこぐらいで、町の大正の頃の地図には、会社の脇も田んぼだった。大正10年の大火で今は文化財になっている酒蔵二つだけ残して焼けるなど火事の言い伝えはあるが、水については特になかった。

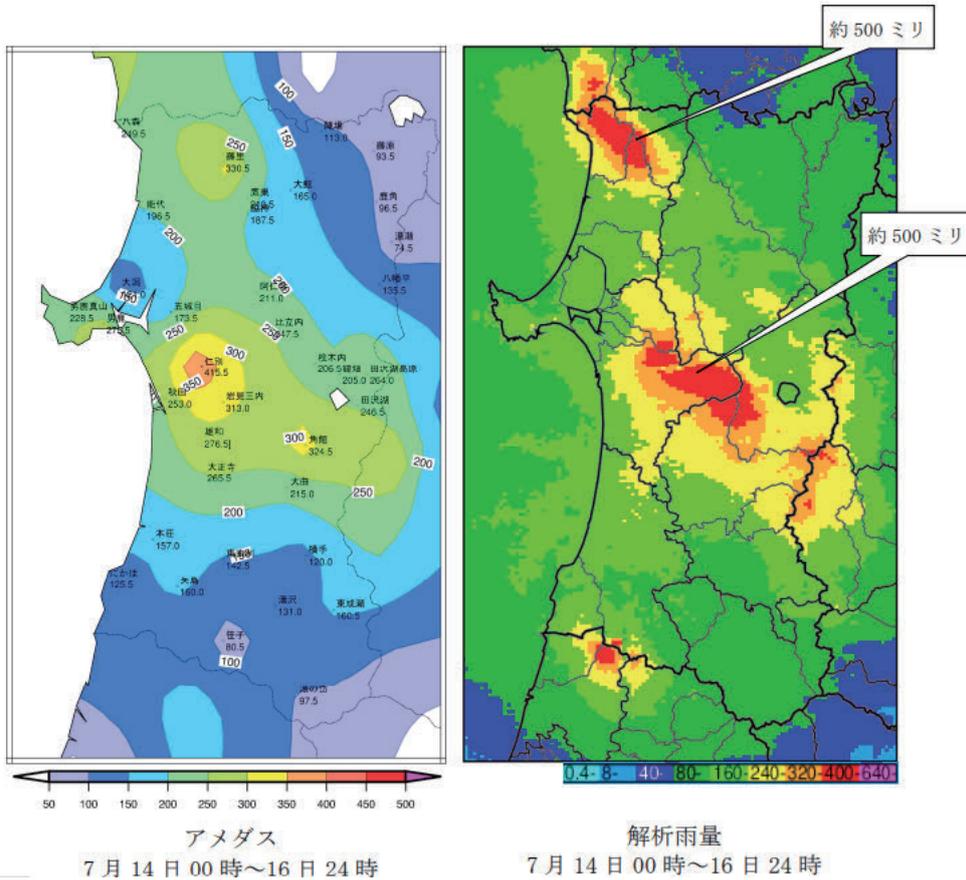
役場の場所も元は田んぼで、役場近くは最近できた場所。今回も洪水の被害に遭ってしまった。



## 2 災害の概要

梅雨前線が東北北部に停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、14日から16日にかけて、秋田県内は広い範囲で大雨となり、白神山地や太平洋山地付近を中心に、激しい雨や非常に激しい雨となった所があった。注) 秋田地方気象台 秋田県災害時気象資料から

14日から15日の総雨量は、五城目で151.5ミリ、水沢で212ミリを記録。二級河川「馬場目川」とその支川「内川川」、「富津内川」の3河川が氾濫。



注) 秋田地方気象台 秋田県災害時気象資料から

### 3 被害の状況

【人的被害】 死者 1 人

【住家被害】 床上浸水 412 戸 床下浸水 196 戸

【避難所開設】 避難所の開設 自主避難所 3 ヶ所、指定避難所 9 ヶ所、最大避難者数 565 人

(7月15日 23時頃)



(五城目町提供)

### 4 災害の時系列

7月13日(木)

16:20 大雨に関する秋田県気象情報 第1号

(13日時点で秋田地方気象台からメール等で情報収集。予想される降水量から早期に防災体制を整備する必要性を認識した。)

7月14日(金)

〈町長〉この日は、東京で秋田県の企業誘致セミナーのために、知事以下、みんな一緒に上京し、東京のホテルに泊まることになっていた。

私は、天気予報を見ていて、降るのではないかと危機感があった。普段から、雨が降るといってもアメダスを見る。1時間ごとに雨量をみて「どうするか」と聞くので、「あんまり見ない方がいい」と部下に言われたりするぐらいだ。

この日も感覚的にまずいなと思い、担当課長と副町長に連絡を取って、当初は15日の昼過ぎ

の便で帰ってくる予定だったが、1便早く帰るということにした。

**13:00** 災害準備室設置（室長：住民生活課長）

〈町長〉セミナーは通常通りのスケジュールで行われ、秋田の雨の話題は特になかった。準備室は課長だが、電話で副町長と連絡を取って、自主避難所の開設や、15日午前6時に災害警戒対策室を設置するよう電話で指示をした。

**18:00** 自主避難所3施設開設

**18:05** 大雨注意報発表

〈町長〉宿舎のテレビでは秋田のニュースを知ることはできないため、スマートフォンで情報を見ていた。副町長には「全部任せる、責任は全部俺が取る」という話をしていた。

## 7月15日（土）

**04:14** 大雨警報（土砂）

**06:00** 災害警戒対策室設置（室長：住民生活課長）

（避難情報の発令、避難所の設置について協議し、午前8時に避難所開設、避難情報を発令することを決定）

**07:15** 土砂災害警戒情報発表

**07:32** 洪水警報発表

**08:00** 全町に避難指示（洪水、土砂災害）（対象1,416世帯、2,996人）、避難所9施設を開設

**10:00** 災害警戒対策部設置（部長：副町長）、第1回災害警戒対策部会議

（河川水位の状況や、職員の参集状況、断水の恐れや道路冠水などの報告、福祉施設の避難など避難状況の報告等）

**10:30** 馬場目川氾濫警戒情報発表

〈町長〉午前の便で秋田空港に着いたときは、土砂降りで前が見えないという感じではなかった。空港から早く帰るため、高速に入ろうとしたら通行止めだったが、秋田市内まで来たらインターから入れた。

**12:00** 馬場目川氾濫危険情報発表、緊急安全確保（洪水）を内川地区の52世帯、98人に発令

（午前10時以降、県河川砂防情報システムでは水位計測できず、現地職員と連絡をとって河川氾濫を確認し、緊急安全確保の発令を判断）

〈町長〉役場前の道路はまだ冠水しておらず、13時からの災对本部会議には間に合った。役場に着いてからは、防災服に着替えずに背広のまま対策本部に入った。情報を収集したり、指示をしたりしたが、体制ができていたので、役場内はドタバタしてはおらず、職員に対する安心感があった。

**13:00** 災害対策本部設置（本部長：町長）、第1回災害対策本部会議

（気象状況や河川水位、職員巡回、避難者等の状況など）

〈町長〉馬場目川の水位が上がっている情報は入っていたので、会議では「人命最優先で」と、指示をした。その後、役場前の道路が冠水、だんだん水の流れが速くなってきた。平成30年の時にも、道路を水が走ったが、その時以上になってきていて、既に避難指示は出していたが、“これは”、と思った。

**16:00** 第2回災害対策本部会議

（緊急安全確保（全町）の発令と防災行政無線等による呼びかけ、町内会長などに暗くなる前

の避難を再度呼びかけすることを決定)

**17:00** 全町に緊急安全確保（洪水）を発令

〈町長〉サイレンを鳴らし、生声で放送をしていたので、「機械の声とは違うな」と思った。危機感がある声良かったと思う。

住民同士の声かけも大きい。町内会長が声をかけて回ったと聞いた。町内会で住民が率先して声をかけたり避難誘導したので、人命が守られたのだと思う。

暗くなったぐらいに、一人暮らしの高齢の方を役場職員がおんぶして救出したりもしていた。消防もがんばってポートも出していたが、「いまは2階へ上がってくれ」という連絡をしたこともあったと聞いた。

## 7月16日（日）

---

**06:00** 第3回災害対策本部会議

（気象状況、河川水位、避難者等の状況の報告、災害救助法関連業務の実施について調整）

**09:00** 第4回災害対策本部会議

（気象状況、河川水位、避難者、浄水場の被害状況等の報告、災害救助法関連業務の実施について調整）

**16:00** 第5回災害対策本部会議

（現地調査結果や現時点での住家被害件数を報告。被災者に対する応急支援で、消毒や浸水被害の写真撮影、災害ゴミの戸別回収、税等の減免申請、災害ボランティアセンターの設置など被災者に対する応急支援等について協議決定）

## 7月17日（月）

---

**08:00** 第6回災害対策本部会議

（避難情報の発令解除や住家被害認定調査、罹災証明書について確認）土砂災害警戒情報 解除

**08:30** 緊急安全確保（洪水）の解除

## 1 秋田市長からのメッセージ

秋田市長 穂積 志

## ●避難情報の発令は大字単位で

本市では、このたびの令和5年7月豪雨災害のような市街地における大規模な内水氾濫は、これまで生きてきて経験がない。過去にはあったと言うが、経験した人はほとんどいない。次第に明らかになった被害は、外水と内水の大規模な浸水被害、住宅だけでなく商店や事業所などの被害、岩見川の氾濫した農地等への被害など、予想を超えたものであった。81カ所の避難所を設置し、2,416人の避難者、そこに1,400人の職員が張り付いて、食料を運搬し、備蓄品の配分などを行った。まずは人命救助に取りかかったが、被害実態の報告をマスコミは求める。被災した世帯数とは毎回問われた。被害の把握に至らず、そこは心苦しかった。

避難情報は命に関わる。今までは内閣府や、県も示している避難情報の発令のあり方に沿って、できるだけ細かに情報発信するため、避難の対象地区を小字まで細分化して発令していた。秋田県情報集約配信システムに、避難の対象地区を打ち込むだけで相当時間がかかった。発令の速度を重視し、大字で出すことも必要だったのではないかと思うこともある。ただし、大字で出している自治体では、議会で「これでは分からない」と指摘された例もある。自分の家はどういうところにあるのか、市民にはハザードマップを確認して自覚してもらい、大字単位で避難指示が出た際に、うちは大丈夫、うちは危ないと判断してもらうことが大事だと思った。内水浸水想定区域図を5年かけて調査して、6月30日にホームページに掲載したところであったが、7月豪雨の時点では印刷物の配布はまだで、十分に周知できていなかった。

アラートに接続する秋田県情報集約配信システムは、現状では一度の発令に対して10地区の入力が限度であり、対象地区が多い場合、一度の発令ごとに主な住所、発令部署、報告日時、発令理由を入力し直した上で、地区ごとに発令地区、発令時間、発令区分を入力することが必要となっている。また河川ごとに入力し直す必要もあり、それだけ大幅に時間がかかるため、一度に入力できる地区数を増加する機能または発令時間、発令区分等を一括で入力できるような機能の追加などの改善について、秋田県に要望した。全国的にそうすべきである。

## ●河川の災害対策は国、県、自治体の連携が重要

令和4年8月の秋田県北部を中心とした大雨の際、秋田市では新城川で高齢者等避難を発令したが、被害はなかった。他市町村同様に単一河川への対応は十分できていると思っていた。このたびの豪雨災害のように、同時多発するとは想定していなかった。

平成29、30年に、国の管理河川である雄物川の水位があがり、支流も水位が上がって、内水氾濫が起きた。雄物川の支流で秋田市の管理河川である古川においては、市だけでなく、国や県と協力しながら流域治水の考えのもと、ハード・ソフトの対策事業が進んでいる。県と市と国が一体となって、流域治水をトータルで対策をすることが大事だと考える。

## ●平時からの準備、訓練の積み重ねが大事

首長は、結果責任が問われる。それを受け止める覚悟は必要だろう。今回、応急対策や復旧・復興において、各自治体から多くの支援をいただいた。しかしながら、災害の発生前やその直後の、特に人命に直接関わるような災害対応は、市の職員にしかできない業務であり、また平素から計画やマニュアルを整備しなければならないと

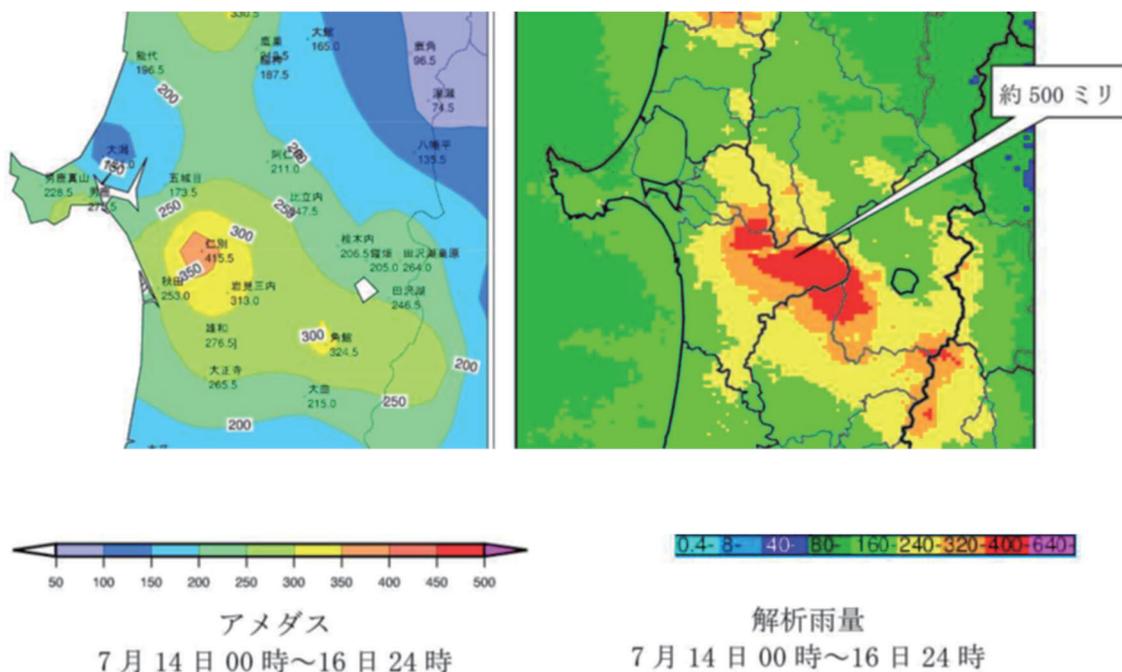
認識した。訓練でできないことは本番でもできないと思う。職員に対し、訓練の必要性をしっかりと理解させ、災害のない時にこそ、実際に手順を踏んで避難情報を発令したり、無線の通話訓練をするなど、実態に即した訓練を行うことが重要である。

●「自分たちの命は自分たちで守る」意識の啓発を

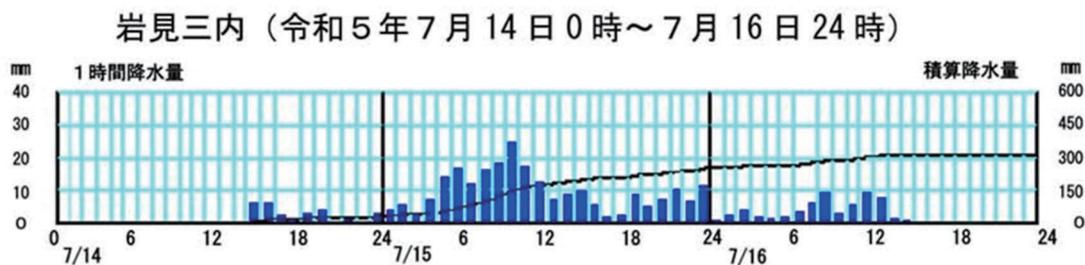
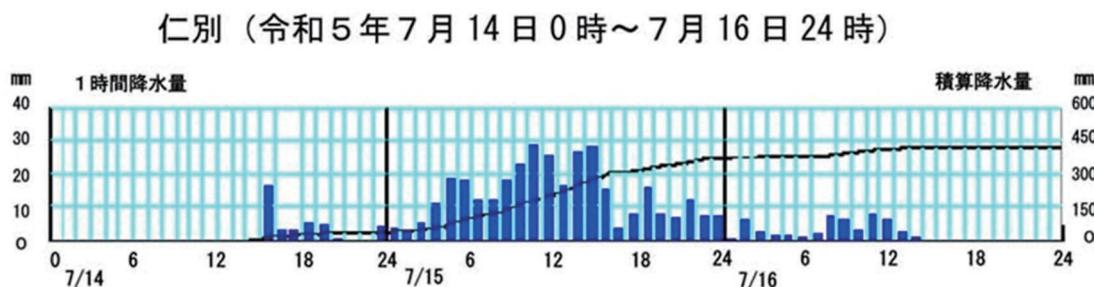
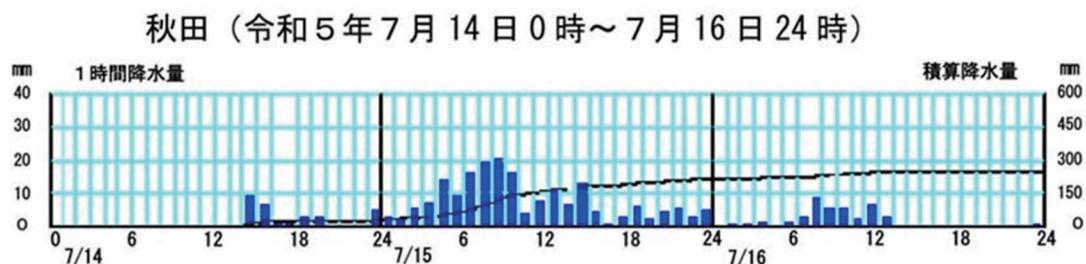
災害はいつ起こるか分からない。特に近年は、日本各地で大規模な自然災害が多く発生している。この状況に対処するには「自分たちの命は自分たちで守る」という考えのもとに、住民自らが主体となって行動する必要がある。災害時には住民は自治体を頼りにすると思うが、自治体も被災するし、職員も被災する。災害時は行政も手が回らない部分が出てくるので、災害時にはどういう行動を起こさないといけないか、避難所はどこで、家族とはどこで落ち合うか、どうやって連絡をとるのか、薬は何を飲んでいるのかなど、自分と大切な人の命を守るために、平時から家族全員で備えることが最も重要であることを市民には伝えていきたい。

**2 災害の概要**

- 1) 梅雨前線が東北北部に停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、14日から16日にかけて、県内の広い範囲で大雨となり、15日の24時間降雨量が仁別ほか複数の観測点で観測史上最大を記録するなど、太平山地付近を中心に非常に激しい雨となった。
- 2) 期間降水量分布図（秋田地方気象台：秋田県災害時気象資料から抜粋）



3) 降水量時系列図（秋田地方气象台：秋田県災害時気象資料から抜粋）



4) 期間降水量（単位：mm）

期間	観測点	秋田	仁別	岩見三内
7月15日の降雨量		※ 188.0	※ 330.0	※ 234.0
7月14日～16日の降雨量		253.0	415.5	313.0
7月1か月の平均降雨量		197.0	295.5	258.1

※ 観測史上最大値

### 3 被害の状況

【人的被害】 重傷2人 軽傷4人（令和6年3月18日現在）

【住家被害】 合計6,109棟（令和6年3月18日現在）

※全壊11棟、半壊2,459棟、一部破損23棟、床上浸水578棟、床下浸水3,038棟

出典：令和5年7月豪雨災害対応検証報告 令和6年3月 令和5年7月豪雨災害対応検証委員会

【避難状況】 避難所の開設：指定避難所81カ所

最大避難者数：2,416人（7月15日22:00）

【道路の被害】 国道：国道7号の一部に土砂流入

県道：10 路線、29 カ所で被害

市道：119 路線、174 カ所で被害

【河川の被害】 太平川、岩見川、新城川、馬踏川、古川で越水

太平川、旭川、猿田川、古川の水位上昇により内水氾濫

【その他】 上水道：上新城保多野地区 7月15日に116戸が断水し、7月16日に復旧

仁別地区 7月16日に129戸が断水し、7月19日に復旧

山内地区の一部 7月15日に36戸が断水し、7月27日に復旧

下水道：約6,000戸が影響を受け、7月17日に復旧

電 気：添川、山内 7月15日480戸が停電し、7月15日に復旧

河辺岩見 7月15日336戸が停電し、7月16日に復旧

添川、山内 7月16日282戸が停電し、7月16日に復旧

雄和神ヶ村、新波 7月16日570戸が停電し、7月17日に復旧

仁別、添川、山内 7月16日432戸が停電し、7月17日に復旧

山内 7月17日74戸が停電し、7月17日に復旧

添川、山内 7月17日135戸が停電し、7月17日に復旧

通 信：約120回線に障害あり、7月29日に復旧

## 4 災害の時系列

### 7月13日（木）

16:20 秋田地方気象台が「大雨に関する秋田県気象情報」を発表

### 7月14日（金）

〈市長〉あきたリッチセミナーinTOKYO2023 出席のため、終日東京に出張していた。週間天気予報等から、15日の朝に秋田に戻るよう飛行機を事前予約していた。

10:00 気象台のWEB説明会で警報級の大雨となるとの説明があった。担当者は、これまでと同程度の災害と認識していたようであり、報告は受けていなかった

15:00 秋田県災害警戒部設置

16:00 秋田市災害警戒対策室設置

17:30 危機管理監への電話で対処体制を確認した。16時設置の災害警戒対策室で、情報収集を行う旨の報告を受けた。

### 7月15日（土）

03:50 猿田川（仁井田） 水防団待機水位(1.40m)到達

04:14 大雨警報（土砂災害）発表

04:20 新城川（笹岡） 水防団待機水位(1.30m)到達

04:30 新城川（五十丁） 水防団待機水位(1.32m)到達

05:00 草生津川 水防団待機水位(1.80m)到達

05:10 暴風警報発表

新城川（五十丁） 氾濫注意水位(1.63m)到達

05:28 〈市長〉危機管理監への電話で状況を確認した。災害警戒対策部を6時に設置予定、今後、特に新

城川と猿田川に警戒が必要と報告を受けた。適切なタイミングで避難情報を発令するよう指示したほか、連絡が取れない場合は、副市長に報告するよう指示した。

- 05:30** 新城川（笹岡） 氾濫注意水位(1.54m)到達
- 06:00** 秋田市災害警戒対策部設置  
新城川（笹岡） 避難判断水位(1.73m)到達
- 06:10** 秋田地域災害警戒部（県秋田地域振興局）設置  
岩見川 水防団待機水位(1.21m)到達  
太平川（太平本町） 水防団待機水位(1.61m)到達  
新波川 水防団待機水位(1.40m)到達
- 06:20** （秋田市秋田）土砂災害警戒情報発表  
馬踏川 水防団待機水位(0.96m)到達
- 06:30** 太平川（牛島） 水防団待機水位(2.00m)到達
- 06:40** 猿田川（仁井田） 氾濫注意水位(2.30m)到達
- 07:15** 猿田川・古川レベル3高齢者等避難発令（37小字）  
※9,516世帯、20,039人
- 07:20** 旭川 水防団待機水位(2.21m)到達
- 07:30** 新城川（笹岡） 氾濫危険水位(2.31m)到達
- 07:45** 新城川レベル3高齢者等避難発令（12小字）  
※509世帯、1,057人
- 08:00** 猿田川（仁井田） 避難判断水位(2.56m)到達
- 08:10** 市長が秋田空港に到着  
7月15日は第2便の飛行機で帰る予定であったが、万が一に備えて、第1便に変更した。  
〈市長〉秋田空港から自宅に移動する間、河川の水害を考えていた。一定程度の雨量で水位が上が  
り、氾濫しやすい河川があることや、平成29、30年に2年続けての豪雨災害があったので、浸水  
害が発生することを心配していた。
- 08:15** 秋田県災害対策部設置
- 08:20** （秋田市河辺雄和）土砂災害警戒情報発表  
太平川（牛島） 氾濫注意水位(3.08m)到達  
旭川 氾濫注意水位(2.78m)到達  
梵字川 水防団待機水位(1.21m)到達
- 08:20頃** 副市長から猿田川・古川、新城川の高齢者等避難、土砂災害の高齢者等避難について報告を受けた。
- 08:30** 土砂災害（秋田市秋田）レベル3高齢者等避難発令  
（182小字）  
※32,090世帯、63,079人
- 08:40** 太平川（太平本町） 氾濫注意水位(2.60m)到達  
市長、自宅に到着
- 08:50** 太平川（牛島） 避難判断水位(3.39m)到達
- 09:00** 下浜鮎川 水防団待機水位(1.97m)到達  
馬踏川 氾濫注意水位(1.75m)到達
- 09:10** 猿田川（仁井田） 氾濫危険水位(2.70m)到達

- 09:30** 太平川（牛島） 氾濫危険水位（3.71m）到達  
 草生津川 氾濫注意水位（2.80m）到達  
 岩見川 氾濫注意水位（2.30m）到達
- 10:10** 草生津川 水防団待機水位（2.76m）低下
- 10:20** 旭川 避難判断水位（3.42m）到達
- 10:40 頃** 〈市長〉危機管理監から、すでに市内で土砂災害が発生し、土砂災害の高齢者避難の発令を優先したため発令に時間を要しており、太平川の高齢者等避難をまだ発令できていないと報告を受けた。発令を急ぐよう指示した。
- 11:00** 太平川レベル3 高齢者等避難発令（36 小字）  
 ※4,538 世帯、9,060 人
- 11:10** 太平川 氾濫発生（4.14m）・・・広面大橋上流右岸
- 11:40** 旭川 氾濫危険水位（3.61m）到達
- 11:50** 太平川の氾濫の報道  
 〈市長〉氾濫したとの報道をみて、危機管理監に電話し詳細に事実確認するよう指示した。秋田県から氾濫情報を入力しておらず、また、情報が混乱している様子でもあり、情報を整理するよう指示した。太平川の水位上昇は想定より相当早く、午前8時20分の氾濫注意水位から、氾濫危険水位までわずか70分だった。他の河川だと120-150分なので、太平川は急速に水位が上がった。レベル3 高齢者等避難は発令していたものの、レベル4 避難指示に至っていなかった。危機管理監からの報告を受け避難指示の発令を急がせたが間に合わなかった。市民は避難できているのか、避難所の受入れはできているのか、被害は拡大しないのか、と心配していた。旭川は氾濫していないが、JR秋田駅の東も、西も氾濫していると聞き、初めての経験で驚きはあった。情報を得て対応策を指示してから、現場に伝達されるまで30分ぐらいかかったため、誰が誰に、どう報告し、指示するかが大事だと分かった。
- 12:05 頃** 危機管理監に緊急安全確保の発令および災害対策本部の設置を指示
- 12:20 頃** 危機管理監に災害対策本部会議の参集および被害状況等の報告を指示
- 12:20** 太平川レベル5 緊急安全確保発令（37 小字）  
 ※4,766 世帯、9,501 人  
 〈市長〉太平川の氾濫発生情報を受け、太平川流域ではすでに立ち退き避難を呼びかける状況になく、もう安全な避難ができないほど切迫している状況であったので、レベル3 高齢者等避難から、レベル4 避難指示を飛ばし、レベル5 緊急安全確保を発令した。これについてマスコミから批判的な記事も出された。それは重く受け止めなければならない。市内の各地で被害の可能性があることから、他の河川においても状況に応じて避難指示の発令を急がせた。また、市内全域の指定避難所の開設を指示した。
- 12:30** 秋田市災害対策本部設置  
 秋田地域災害対策部（県秋田地域振興局）設置  
 市長、市役所へ向かう  
 〈市長〉自宅から市役所に向かう際は、バイパス等の大きな道路を通ったので冠水や目に見えての被害、住民の様子等は確認できなかったが、橋を渡る際に一級河川である雄物川の水位がだいぶ上がっていると感じた。

- 12:50 市長、市役所に到着
- 13:15 第1回秋田市災害対策本部会議  
消防長からの報告で、全力で対応しているものの、119番通報の全てに対応できず、人命に関わるものを優先しているという報告を受けた。被害の大きさや緊急度などを再認識した。土砂崩れで4人が緊急搬送されたという報告もあった。
- 14:20 猿田川・古川レベル4避難指示発令（37小字）  
※9,516世帯、20,039人  
新城川レベル4避難指示発令（12小字）  
※509世帯、1,057人  
（秋田市秋田）土砂災害レベル4避難指示発令（182小字）  
※32,090世帯、63,079人  
旭川レベル4避難指示発令（23小字）  
※6,749世帯、12,878人
- 14:40 岩見川 避難判断水位(3.50m)到達  
新城川 氾濫発生(2.99m)・・・槻ノ木橋周辺
- 15:20 新城川レベル5緊急安全確保発令（12小字）  
※509世帯、1,057人
- 16:00 第2回秋田市災害対策本部会議  
〈市長〉旭川ダムの緊急放流を開始するとの情報があり、さらに被害の拡大が懸念されるとの報告があった。旭川流域にはレベル4避難指示を出してはいたが、さらに住民への広報を徹底することや、消防による避難誘導を指示した。土砂崩れで緊急搬送した4人の命に別状がなかったという報告には、安堵した。  
秋田県災害対策本部設置
- 17:22 旭川ダムの緊急放流開始
- 18:00 岩見川レベル4避難指示発令（7地区）  
※2,651世帯、5,664人  
第3回秋田市災害対策本部会議  
〈市長〉開設した避難所に避難者が集まってきており、スペースが足りるのか、食事や物資など備蓄品だけで対応できるのか、現場を確認して対応するよう指示した。  
保健師による避難所の巡回健康相談を開始
- 23:00 市長帰庁 自宅へ向かう  
〈市長〉帰宅する頃までの被害報告では、道路冠水での通行止めや土砂災害が主であり、旭川ダム緊急放流の影響もなく、人的被害も報告されていなかった。また、あらたな救助の要請や避難者も確認されておらず、市全体の被害は太平川、新城川流域と市街地諸処の内水被害と考えられた。

## 7月16日（日）

- 06:00 避難者数は1,810人
- 07:00 第4回秋田市災害対策本部会議
- 10:00 避難者数は1,078人  
旭川ダムの緊急放流終了

11:00 第5回秋田市災害対策本部会議

14:00 避難者数は918人

16:00 第6回秋田市災害対策本部会議

### 7月17日(月)

09:00 第7回秋田市災害対策本部会議

13:00 第8回秋田市災害対策本部会議

17:00 第9回秋田市災害対策本部会議

### 7月18日(火)

09:00 第10回秋田市災害対策本部会議

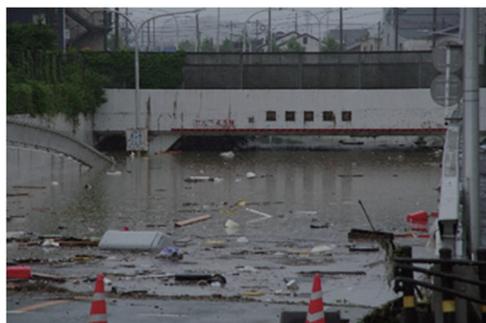
13:00 第11回秋田市災害対策本部会議



令和5年7月16日 崩落した旭川路肩



令和5年7月16日 添川地区の土砂崩れ



令和5年7月16日 明田地下道の浸水状況



令和5年7月17日災害対策本部会議の様子

# 令和5年台風第6号

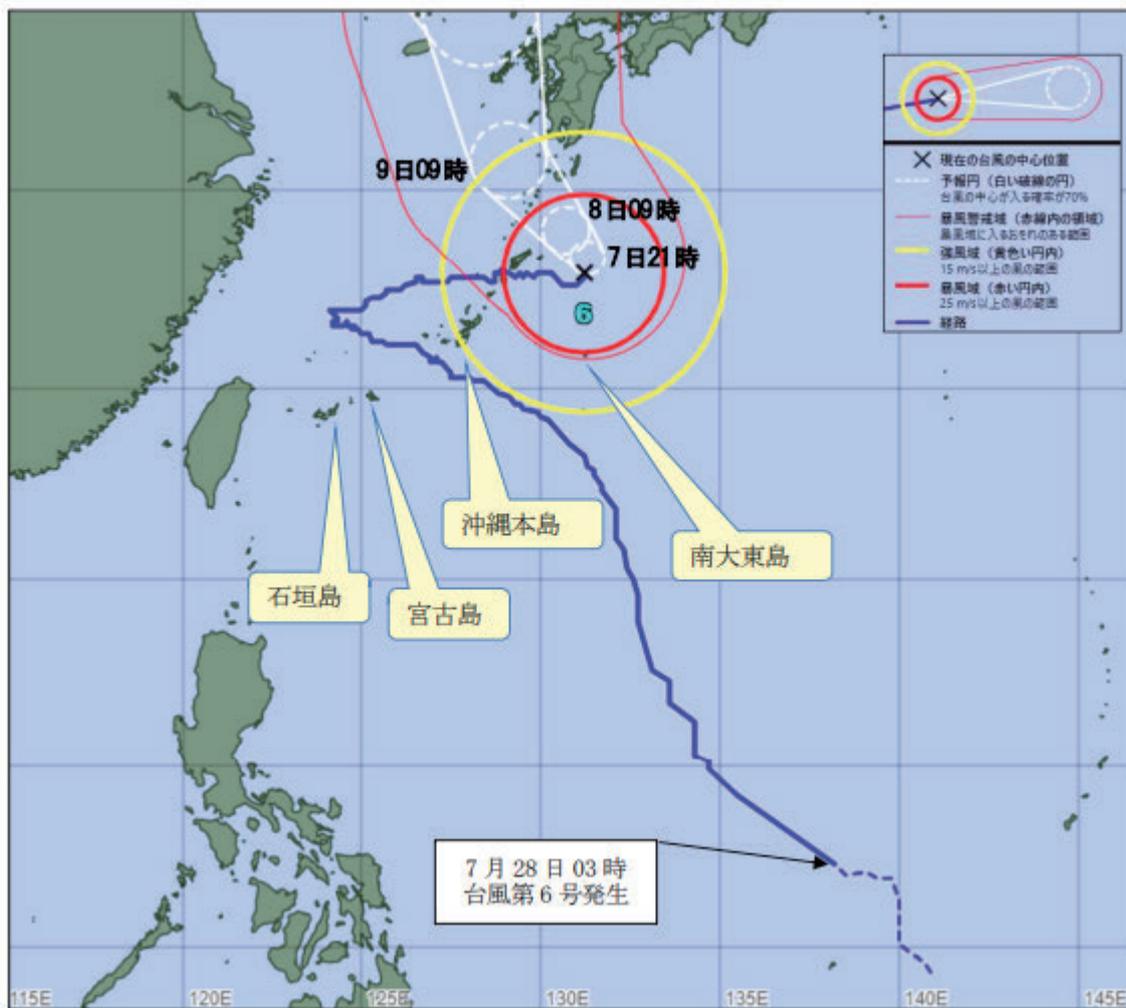
## 1 気象の概要

7月28日3時にフィリピンの東で発生した台風第6号は、8月2日から3日にかけて、大型で非常に強い勢力で沖縄地方にかなり接近した。その後、西へ進み、東シナ海でほとんど停滞した後、進路を東へ変えてゆっくりとした速度で再び沖縄・奄美に接近した。沖縄・奄美を通過後は北上し、9日は九州の西の海上を北に進んだ。

7月30日から8月10日にかけての総雨量は、台風接近前から雨が降り続いた九州南部地方の多い所で1,000ミリを超える大雨となり、平年の8月の月降水量の2倍を超えた地点があった。また、台風の影響を長く受けた沖縄・奄美では多い所で700ミリを超える大雨となり、平年の8月の月降水量の4倍を超えた地点があった。四国地方でも、多い所で800ミリを超える大雨となり、平年の8月の月降水量を超えた地点があった。沖縄地方や九州南部・奄美地方、九州北部地方、四国地方では線状降水帯が発生した。

沖縄地方では最大瞬間風速が50メートルを超え、8月の1位の値を更新した地点があったほか、潮位が過去最高の値を更新した地点があった。また、再接近時も最大瞬間風速が30メートルを超える風が吹くなど、影響が長く続いた。8日以降は台風の北上に伴い、九州でも40メートルを超える最大瞬間風速を観測した。

注) 内閣府：「令和5年台風第6号による被害状況等について」（令和5年8月10日16時00分現在）から



(沖縄気象台「(速報：第3報) 令和5年台風第6号について」から)

## 2 被害の概要

この台風は貿易風で西に流されて沖縄付近に達した後、勢力の強い太平洋高気圧に行く手を阻まれていた。進路に影響を与える偏西風も台風のはるか北側で東西に流れており、台風を東へ進める力が弱かった。その結果、沖縄近海に長期間とどまり、大雨や暴風などの影響をもたらし、沖縄県から九州地方にかけて、死者1名、負傷者100名の人的被害が発生した。

また、その間南西諸島物流の大動脈である海路が欠航し、長期間再開の見通しがたたず、南西諸島の多くの島で生鮮食品の品薄、欠品が続くとともに、沖縄県内では台風の影響で、約21万7,800世帯が停電した。

【人的被害】死者1人、負傷者103人（重傷7人、軽傷96人）

【住家被害】全壊5棟、半壊24棟、一部破損249棟、床上浸水30棟、床下浸水115棟

注）令和5年台風第6号による被害及び消防機関等の対応状況（第20報）から

1 那覇市長からのメッセージ

那覇市長 知念 覚

●いつもの台風と侮ってしまった・・・

今回の台風は、大きさ自体は我々が経験したことがないというようなものではないんですよ。最初、これは通常通りの台風で、特に反応するようなものでもないなっていうことで私は備えてました。

結局、期間が長かったっていうのが一番大きいですね。ですから当初はそんなに長期にわたるとか、または台風が再び戻ってくるという計算もその段階ではなかったですね。

●ハイシーズンで観光客の混乱はおおきかった・・・

（観光客への影響は）7月31日から8月7日にかけて、国内線でトータル33万4,703名が影響を受けてるんですね。延泊するしかない方も多く、中には最長で7泊延長した方もいらっしゃったようです。

	欠航便数	影響人員	那覇空港
7月31日（月）	218便	2万7,834人	
8月1日（火）	374便	4万8,327人	※閉館
8月2日（水）	376便	6万5,458人	※閉館
8月3日（木）	301便	4万9,284人	
8月4日（金）	188便	2万4,139人	
8月5日（土）	331便	5万1,405人	※閉館
8月6日（日）	330便	5万6,441人	※閉館
8月7日（月）	65便	1万1,815人	
合計	2,183便	33万4,703人	

国内線の欠航便数と影響人員（OCVBのまとめによる）

空港が8月1、2日と5、6日と4日間も閉鎖したことで混乱が発生しました。特に、空港が開いた8月3、4日には、飛行機に乗るため観光客らが殺到しました。

また、沖縄の各地に滞在していた人も、おそらくキャンセル待ちだと思いますが少しでも那覇空港の近くまで行っておこうと那覇市に集まってくるということもありました。その中、一部ホテルでは停電の影響で営業ができなくなったため、宿泊先を探しづらい状況が発生しました。県内各地のホテルにそのまま分散して滞在していただけるとよいのですが、那覇空港まで来たにも関わらず飛行機に乗れなかった人が那覇市に集中することとなり、滞在先が見つからずに避難所に来るというケースもありました。自分がいつ飛行機に乗れるのかっていうのがしっかりわかるようにしてあれば、ホテルを引き払う必要もありませんし、滞在先を早めに探すことができますよね。今後、空港に行かずともキャンセル待ちを行える仕組みができれば、県内各地の宿泊施設に分散して滞在することができ、滞在先に困る観光客も減るのではないかと思います。

### ●観光が大きな産業の場合は「観光危機管理計画」が重要

那覇市は「観光危機管理計画」を策定していますが、他機関と一緒に連携する「台風時観光客対策協議会」の担任事項に基づいて対応するのですが、我々は避難所の運営などが主なんです。それから情報発信。今回も、住民とか観光客が分け隔てなく避難所の情報ですとか地域がどうなっているかという情報を HP や SNS 等を活用して提供しました。

うまく機能した点としては、トラブルに備えて 24 時間体制で連絡を取れるように準備していたこと。避難所に来られた観光客への対応がしっかりできたこと。

機能しなかった点としては、「台風時観光客対策協議会」各関係機関との連絡が繋がらない時間帯があったこと。また、それぞれの各関係機関の役割を明確にする必要があったことや、観光客に対する一時待機所の設置ができなかったことなどが挙げられます。

観光客に困ったことについてアンケートを取ったところ、一番多いのが「飛行機の予約」。2 番目が「食べ物の確保」。3 番目が「旅行費用の増額」。4 番目が「宿泊先を探すこと」でした。

### ●避難所には観光客も差別なく受け入れる

避難所では困ってる方が来たら受け入れるというのを基本としておりますので、観光客も住民も区別なしに受け入れています。そのため、観光客がどれだけ避難所に来ていたのかはカウントしていません。観光客かどうかっていうのを避難所でチェックしたら、何となく差別というか、住民優先だろうとかいうことが起こりうるんじゃないかと思い、受け付けをする時に名前だけ書いていただき、どこに住んでいるかは書かなくてもいいよと強制はしていません。

### ●災害時の空港の在り方は検討の余地があるのでは・・・

今回、那覇空港は4日間にわたって閉鎖されましたが、災害時に空港のターミナルをどう使うかということは課題じゃないかなと私自身は思っています。空港には備蓄倉庫もありますし、食料もある状況ですから、できたらそこにうまい具合に（観光客を）受け入れる体制ができれば、そこまで混乱を起こさないんじゃないかなっていう気はします。空港のターミナルをどう使うか、今後検討すべき課題なのかなと思います。

### ●物流ストップはおおきな課題、大手企業の救援が大きな力に

物流のストップはおおきな課題でした。台風の影響で流通も止まっていますので食料がなかなか手に入りにくいとか、そういう状況がありました。観光客へのアンケートでも、食べ物の確保っていうのが困ったこととして結構多かったんですよ。コンビニが全部空になりますので。

今回はイオン琉球さんが、台風の間飛行機が飛んだ空白の1日のタイミングに地域貢献だということで飛行機でポンと運んでくれたのが大きかった。イオン琉球さんとは支援協定を結んでいるのですが、イオン琉球側で物資が足りなくなるの見越して対応してくれた。いろんな団体等と協定をしていますが、赤字になってもここまでやってくれた。市民の中には、あのときに初めて（本土でしか流通していない）山崎パンを食べたって言っている方もいましたね。結構喜ばれてました。

災害時にはもう利益を度外視して助け合わないといけない。それを各企業が使命感を持ってやってくれたから、かろうじて乗り切れたというところです。

ただ、沖縄の場合は陸路がないので、東日本大震災のように長期間物流が止まってしまった場合には、船と航空機だけでどのように物資を確保していくのが課題です。

## ●住民に向け、早いタイミングでメッセージを出すのが大切

### 令和5年台風6号被害に関する市長メッセージ

那覇市民の皆様へ

このたびの台風6号及び線状降水帯に係る大雨で、被害を受けられた皆様へ、心からお見舞い申し上げます

沖縄県を襲った大型で非常に強い台風6号により、県内では二度にわたり暴風警報が発令され、甚大な被害をもたらしました。本市においても、強風による人的被害をはじめ、ビルや家屋の損壊、土砂崩れ、折れた電柱や木々が道路を塞ぐなど、近年でも稀にみる大災害となりました。

また、多くの世帯や事業所で長期間の停電や断水を引き起こすなど、市民生活に大きな影響を与えております。

本市では、本庁舎を含む各施設で自主避難所9か所を開設し、市民や観光客など多くの方を受け入れ、市消防局においては、強風による家屋損壊の対応や倒木の除去、火災や救急搬送等に対処いたしました。

このたび国においては、今回の台風6号の被害について、本市を含め県内34市町村に対し災害救助法を適用するとの決定がありました。

本市では、早速、各地域の調査を開始し、被害状況の把握に努めるとともに、一日でも早く、市民の皆様の日常生活回復に向け、国や県とも連携し、全力を挙げて被害復旧に取り組んでまいります。詳細については、本市HP内に、被害を受けられた方等に対しての特設ページを設けておりますので、是非ご活用して頂きたいと思っております。

最後になりますが、台風通過後、市内各所の至るところで、枝葉やごみが散乱しておりましたが、一夜で、これら全てがまるで何事もなかったかのように片付けられておりました。我が町をきれいにしようと、地域の皆様方が力を合わせて、一生懸命に片付けて頂いたのだらうと察します。市民の皆様にご感謝申し上げます。

まじゅん ちばてい いちやびらやーさい（一緒に 頑張って いきましょう）。

令和5年8月8日

那覇市長 知念 覚

（台風直後に住民向けのメッセージを発表したことについて・・・）

今回の台風では、商店街の方でアーケードが壊れるなど全てがめちゃくちゃになって、今後どうしたらいいんだというような悲壮感が漂ってたんですよ。精神的な損害、これも大きいんですよ。特に、先が見えなくなるような被害を受けた方がおられると思いましたので、そういうものは必ずどうにかかりますよというのを届けないと、やはり住民の心が折れてしまう。そこで、できる限りの思いを伝えてあげるっていうのは必要だろうと思ってメッセージをだしました。

不安に駆られてる方々があちこちにいるなかで、行政も今後できることをしますので、タイアップしながらみんなで乗り切りましょうというメッセージを発することは大きいかなと思います。

## ●シミュレーションをいろいろとしておくことが大切

災害の規模によって、援助する体制の在り方も無数にあると思うんですよね。例えば地震が、この地域に限定的なものなのか、または広域に渡ったときにどういう支援体制を組むのかというものを、当初からシミュレーションを丁寧にしとかなないといけないと思います。いざというとき体制を構築するまでに1ヶ月かかったりしたら大変。規模感に対する対応策っていうのを、常日頃からシミュレーションしておくことが重要だなと思います。

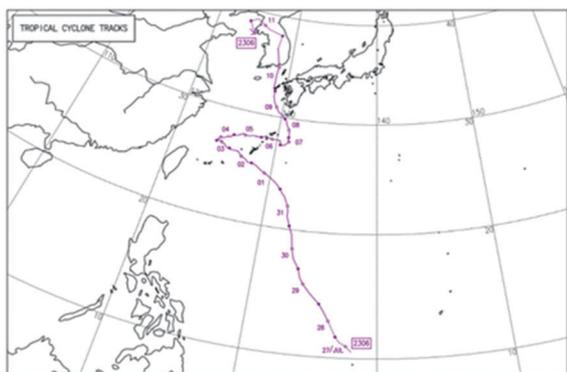
とにかく病気を持っている方々が倒れてしまったりする、心が折れてしまう方も出てくる。想定されている南海トラフ地震とかでは果たしてどこまでの県をまたぐようなものになっていくのか、その場合にどういう支援体制がとれるかというのは、しっかりとシミュレーションしておかないと大混乱に陥るんじゃないかと思っています。

## 2 災害の概要

台風6号は7月28日3時にフィリピンの東で発生、日本の南で急速に発達し（中心気圧が24時間で20hPa低下）31日15時には、南大東島の南約340kmで中心気圧945hPa、最大風速45m/sの大型で非常に強い勢力となって沖縄地方に接近した。

8月1日からは進路を徐々に西よりに変え、2日にかけて沖縄本島と宮古島の間を通過して、久米島の南西約40kmまで近づき、3日から4日は宮古島の北海上でほとんど停滞した。その後、4日12時から進

路を東に変えて5日3時には沖縄本島の北海上を通過、6日には徳之島付近を通過、7日には奄美大島の東に進み、その後九州の西側を北上した。

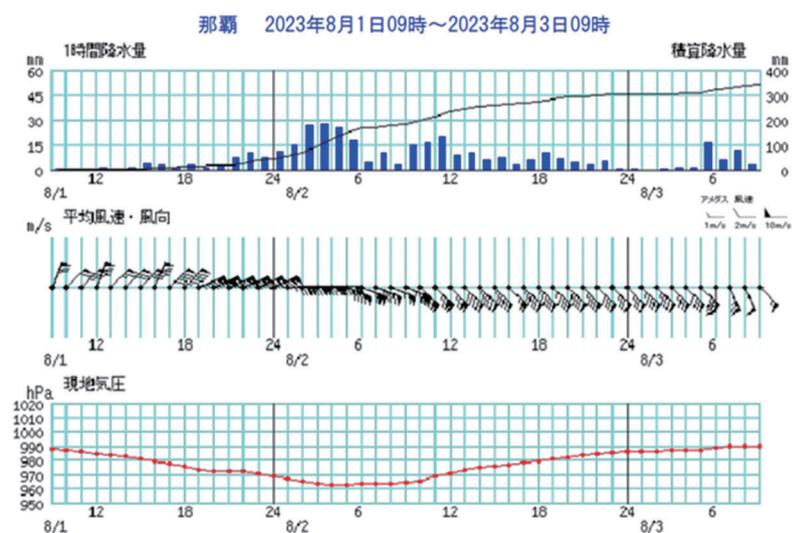


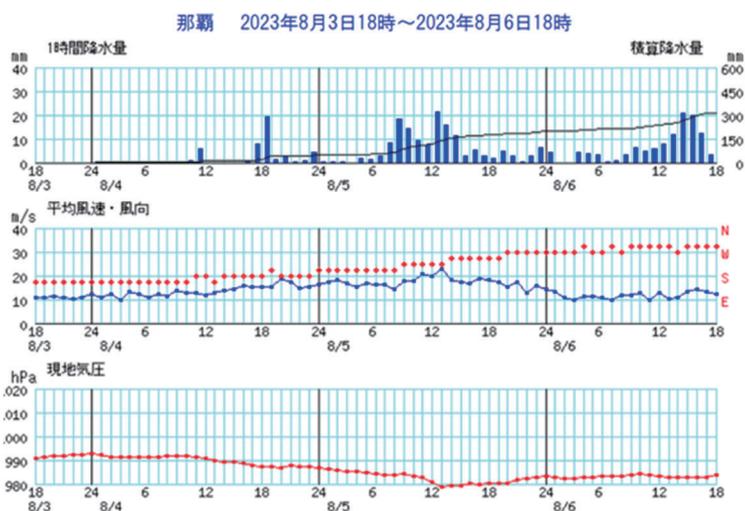
台風6号の進路（気象庁）

このため、沖縄地方は約1週間にわたり台風の影響を受け、沖縄本島地方は1日から3日と、4日から6日の二度にわたり暴風域に入った。

さらに、沖縄本島地方では、6日明け方に本島北部で北西から南東走向の線状降水帯が発生した。また、台風の接近と大潮の時期が重なり、2日には沖縄本島の東海岸（南城市の沖縄験潮場：国土地理院）で過去最高潮位を上回った。

那覇市では8月2日に最大瞬間風速52.5m/sを観測。また、雨量も多くなり2日には日降水量が260.5ミリに達した。





那覇での気象状況（気象庁資料から）

沖縄地方では二度にわたって暴風警報が発表され、甚大な被害がもたらされた。那覇市では強風による人的被害をはじめ、ビルや家屋の損壊、土砂崩れ、折れた電柱や木々が道路を塞ぐなど、近年でも稀にみる大災害となった。また、多くの世帯や事業所で長期間の停電となり、停電による断水を引き起こすなど、市民生活に大きな影響を与えた。停電対策ではPHEV車の提供を受け、市民のスマホなどの充電ができるよう体制もとった。

那覇空港は8月1日から3日までと5日から6日にかけて全面的に航空便が欠航となり、期間中の欠航は、国内線で2183便、影響人員33万4,700人、国際線は89便、影響人員1万6,037人に達した。また、空港ビルも合計4日間も閉鎖となって観光客らに大きな影響が出た。

那覇市は本庁舎を含む各施設で自主避難所9か所を開設して市民や観光客など多くの方を受け入れた。

### 3 被害の状況

【人的被害】 軽傷4人（令和5年10月10日10:00）

【住家被害】 半壊12戸、床上浸水5戸、床下浸水3戸、一部破損1戸（令和5年10月10日10:00）

【避難状況】 8月1日から3日：128世帯、209人

8月4日から6日：63世帯、95人

【その他】 停電：那覇市では最大約2万7,000世帯で停電

（首里石嶺町・小禄地域などで最長1日から7日まで停電が継続）

上水道：県内の停電戸数が約21万件に達し、アパートやマンション等の共同住宅で停電に起因する断水が発生

通信状況：各携帯電話会社の通信も長期間利用しづらい状況となった

### 4 災害の時系列

7月28日（金）

17:00 災害警戒本部設置

〈市長〉沖縄県では、ある程度台風については体制が整っています。職員もかなり手慣れたような手順でやっていけると思います。ただし、やはり休みを挟んでとなると初動が遅れる可能性があるため28日に警戒本部を設置し、暴風域に入った時の体制や避難先の調整を行いました。

7月30日(日)

13:22 強風注意報・波浪注意報発表

7月31日(月)

11:00 那覇市災害対策本部設置・第1回本部会議開催

〈市長〉この段階で、避難情報を発令する区域とかですね、あとタイミング、それから夜間とか早朝に避難所を開設するかどうか、こういうような調整を行いました。事前に、ここで綿密に打ち合わせしておこうということで、夜の体制とかいろいろ心構えが必要ですから、本部員より職員にそれをまず周知することになりました。

今回、結果的には非常に混乱したのですが、最初の段階では通常通りの体制で臨むというのが、そのときの申し合わせ事項でした。

31日は国内線 218便が欠航 2万7,834人に影響

8月1日(火)

04:25 暴風警報発表

05:05 避難所開設のお知らせ(暴風警報発表に伴う)

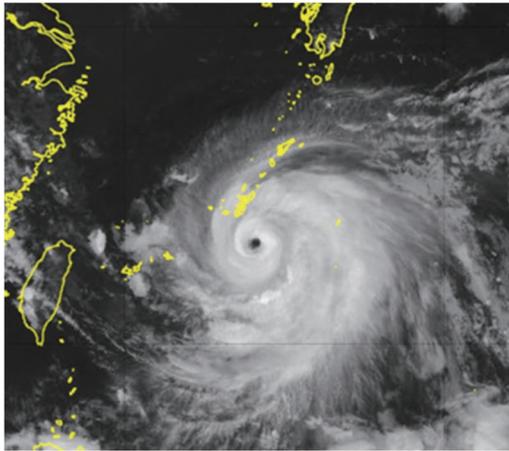
07:00 高齢者等避難(レベル3)発令 (市内全域 155,806世帯 318,917人)

自主避難所開設(9か所)

〈市長〉家屋の倒壊について、沖縄はRC構造の鉄筋コンクリートの建物が多いという歴史があるんですが、まだ一部に木造で倒壊しやすい建物が残っています。そういう所の方は、各々の経験値でわかってるんですね。自分が少し怖いと感じる方々が台風の時には避難してくるケースがあります。そういう方々を含めて大体市内全域、全世帯に避難情報を出します。避難情報の発令については、経験から全世帯でかけても問題ないなというふうに思っていました。各自主避難所には各部局から3名1組の職員を交代制で派遣し、24時間交代制で避難所運営を実施しました。

11:00頃 那覇市が暴風域に入る

15:30 避難指示(レベル4)発令(市内全域 155,806世帯 318,917人)



8月1日 18:30 ころの台風6号の衛星画像（気象庁・東から沖縄本島に接近してきた）



1日18時段階での進路予想（気象庁）

**23:00** 停電のため避難所の一部を閉鎖（若狭公民館、繁多川公民館）

〈市長〉停電した避難所では小型蓄電池などで扇風機を使用しましたが、空調の停止で避難所内が高温・多湿になったことから、避難者の健康状態の悪化が懸念され、タクシーを利用して停電していない避難所に移動してもらいました。

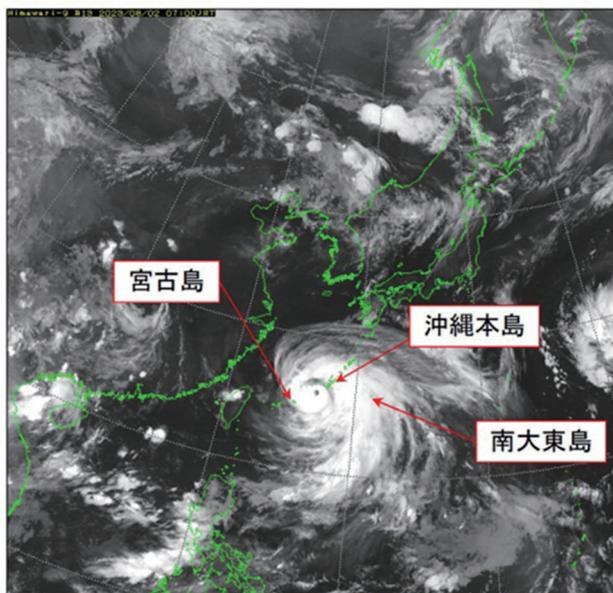
今回の台風は停電が長期にわたったというのが非常に混乱を起こした原因だったなというふうに思います。実はこの停電で何が起きたかというと、水が止まるんですよ。那覇市はビルが多く、水はポンプアップして配給しているため、市が管理している水道には問題ないが、停電によって各地で断水が起きてしまったんです。非常用の発電機とか備えているアパートやマンションも結構あるんですけども、これだけ長期に渡った場合には、燃料を補充するルートも厳しくなるんです。

1日は那覇空港 終日閉館 国内線374便が欠航 4万8,327人に影響

**8月2日（水）**

- 01:15 大雨注意報発表
- 01:46 洪水注意報発表
- 03:30 大雨警報（土砂災害）発表
- 03:43 土砂災害警戒情報発表

- 03:51 洪水警報発表
- 04:14 最大瞬間風速 東南東の風 52.5m/s を観測
- 04:25 大雨警報（土砂災害・浸水害）発表
- 04:37 那覇で最低気圧 967.3hPa を観測
- 06:43 那覇で 168 センチの最高潮位を観測



気象衛星画像（赤外） 2023年8月2日7時

12:00 停電のため避難所の一部をさらに閉鎖（小禄南公民館）

23:00 那覇市が暴風域から抜ける

2日は那覇空港 終日閉鎖 国内線376便が欠航 6万5,458人に影響

〈市長〉（Uターンしてくる予想になったことについて）通常、台風の想定は大体2、3日なんです。ですから台風はここ2日には抜けていくなっていうのが普通です。

今回、長期戦になれば当然に職員のやりくりということもありましたが、それよりは食料とかですね、流通が止まってしまう可能性があった。しかし、その辺りはこの時点ではそこまで来るかということは、私は本当のところでは想定していませんでした。

## 8月3日（木）

01:08 暴風警報解除 大雨警報（土砂災害）に切り替え ※浸水害は解除

01:17 土砂災害警戒情報解除

04:23 洪水注意報に切り替え

07:00 避難指示解除・すべての避難所閉鎖（暴風警報等解除のため）

07:18 洪水警報発表

10:58 洪水警報を注意報に切り替え

11:53 洪水注意報解除

16:00 第2回災害対策本部会議を開催

〈市長〉いつもならここでもう終わったという段階でしたが、この段階ではもう一度戻ってくるということを警戒していました。避難所の対応についてしっかりまた立て直すということと、既に台風の

被害が生じていて家屋の倒壊などもありましたので、自宅が倒壊してる方については、市営住宅入居を案内するということを指示・確認しました。

また、電気が止まっている状況が結構ありましたので、停電による推し測れないような混乱状態がありました。ライフラインがストップすることによる影響の方が非常に大きかったですね。

## 8月4日（金）

12:19 避難所の職員に参集を指示

※台風6号の再接近に伴う避難所開設準備を指示

〈市長〉現在の避難所の状況などを調べ、ライフラインが断たれている方々が避難所にくる可能性があるのでは、それも含めて避難所の体制自体しっかり作ろうと指示しました。うちの避難所でもライフラインがやられているところもありましたので、そのあたりを調整しました。

15:00 高齢者等避難（レベル3）発令（市内全域 155,806 世帯 318,917 人）

自主避難所開設（9か所）

15:27 暴風警報発表

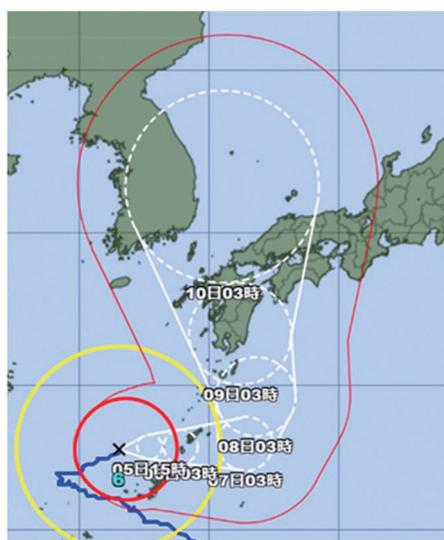
18:46 洪水注意報発表

19:00 避難指示（レベル4）発令（市内全域 155,806 世帯 318,917 人）

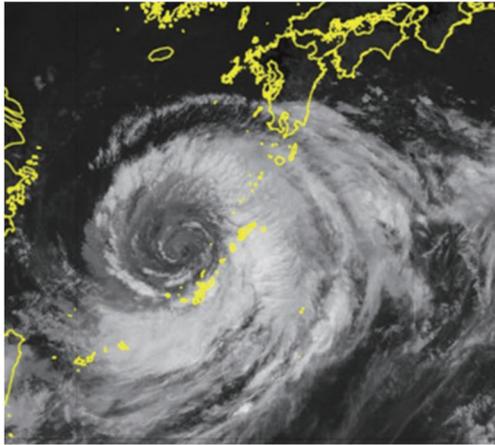
## 8月5日（土）

01:00 頃 那覇市が暴風域に入る

05:22 線状降水帯発生の可能性について、半日前程度からの注意を呼び掛ける情報



5日5時時点での進路予想（気象庁）



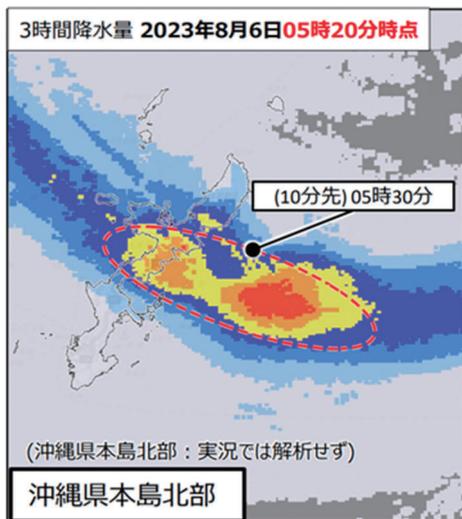
5日 12:06分の台風の衛星画像（気象庁・再び東進して沖縄本島に接近してきた）

- 12:44 土砂災害警戒情報発表
- 13:29 洪水警報発表
- 22:15 洪水警報を注意報に切り替え
- 23:19 高潮注意報解除

5日は那覇空港 終日閉館 国内線便が331欠航 5万1,405人に影響

**8月6日（日）**

- 00:00頃 那覇市が暴風域から抜ける
- 01:38 土砂災害警戒情報解除
- 04:28 暴風警報を強風注意報に切り替え  
避難指示解除
- 05:00 避難所の一部を閉鎖（3か所）
- 05:30 顕著な大雨に関する情報（沖縄本島北部）



気象庁資料から

**08:00** 避難所の一部を閉鎖（5箇所）

〈市長〉このときは特に中心となる避難所は閉鎖はしますよということでしたけども、ただまだお困りの方がいたため、一部を残して確認するようにはしました。避難所としての市役所の機能は、ある程度維持してましたね。観光客が一時的に避難する場所も必要で、市役所のロビーでは通常じゃあり得ないぐらいのテントを張って対応しました。

インバウンドの人もいましたが、エリアメールを見て市役所に避難してきたという、ここに行けば何とかするという海外の方がいらっしゃいました。



那覇市役所に設置された避難所（那覇市提供）

**13:15** 土砂災害警戒情報発表

避難指示（レベル4）発令（市内全域 155,806 世帯 318,917 人）

〈市長〉（那覇市でも）土砂災害の指定区域多いですから、長期に亘った雨量ですのでこれは常に警戒しながら見てましたね。

6日は那覇空港 終日閉館 国内線便が330欠航 5万6,441人

8月7日(月)

---

- 01:55 洪水注意報解除
- 03:20 土砂災害警戒情報解除  
避難指示解除
- 04:04 波浪注意報解除
- 07:00 避難所閉鎖
- 08:45 第3回災害対策本部会議を開催
- 10:12 大雨注意報に切り替え

# 令和5年台風第7号

## 1 気象の概要

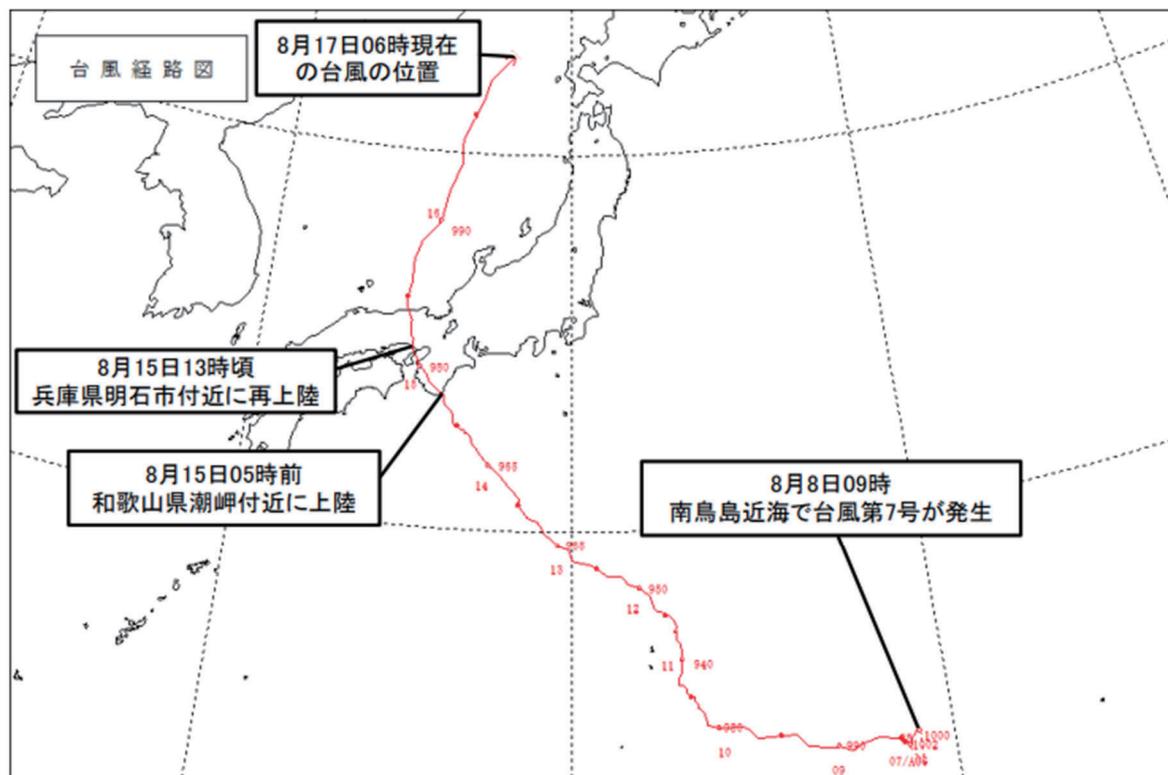
台風第7号は、8月15日5時前に和歌山県潮岬付近に上陸、その後近畿地方を北西に進み、13時頃には兵庫県明石市付近に再上陸した。再上陸後は兵庫県を北上し20時頃には豊岡市付近から日本海に抜けて北東に進んだ。台風の通過や台風周辺の暖かく湿った空気が流れ込んだため、近畿地方や中国地方を中心に記録的な大雨となった。

15日は鳥取県と岡山県に線状降水帯が発生し、鳥取県では大雨特別警報を発表しました。8月13日9時から16日9時までの期間の降水量は、奈良県下北山村佐田で580.5ミリ、奈良県十津川村葛川で559.0ミリ、和歌山県那智勝浦町色川で566.0ミリを観測した。この期間、京都府福知山市坂浦、兵庫県養父市八鹿、奈良県下北山村佐田、岡山県鏡野町恩原、鳥取県鳥取市佐治などでは日降水量が年間の極値を更新した。

また、兵庫県神戸市中央区では最大瞬間風速が北北東の風35.7メートル（15日6時59分）、最大風速は北北東の風22.5メートル（15日7時1分）を、大阪府関西空港では最大瞬間風速が北北東の風31.9メートル（15日6時25分）、最大風速は北北東の風24.9メートル（15日07時15分）を観測しました。

注）大阪管区气象台：「令和5年台風第7号による大雨と暴風について」（令和5年8月17日17時00分現在）から

台風経路図

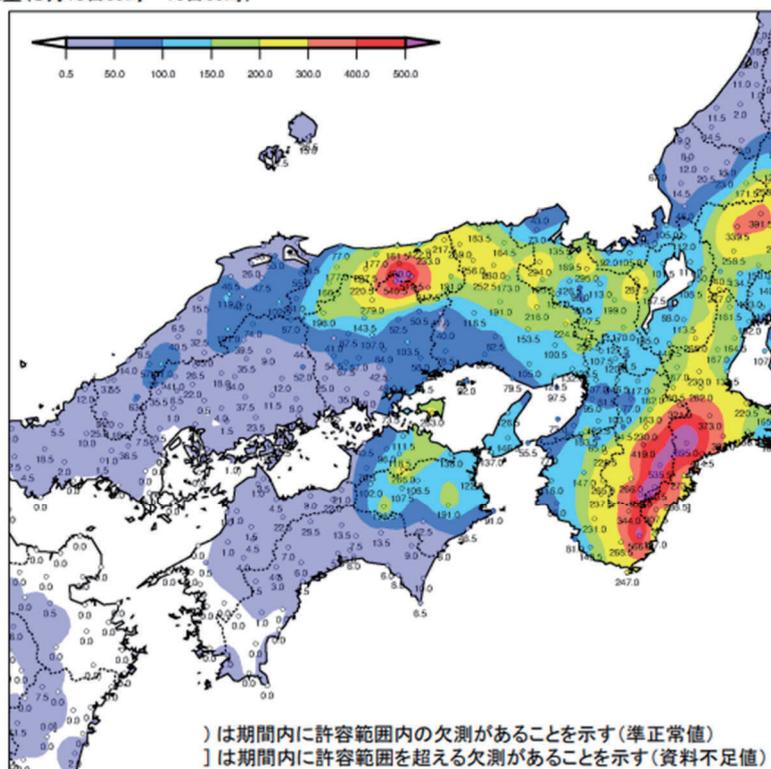


経路上の○は09時の位置、●は21時の位置、→は現時点での台風の位置、各○の2桁数字は日付、3桁以上の数字は気圧を示す。

注）大阪管区气象台：「令和5年台風第7号による大雨と暴風について」（令和5年8月17日17時00分現在）から

## 雨の状況

○アメダス期間降水量(8月13日09時～16日09時)



注) 大阪管区気象台:「令和5年台風第7号による大雨と暴風について」(令和5年8月17日17時00分現在)から

## 2被害の概要

この台風の影響により、土砂、がけ崩れによる被害の発生、近畿地方、中国地方(山口県を除く)、四国地方では、負傷者63名、床上浸水113棟、床下浸水495棟、一部破損224棟の被害がありました。

【人的被害】負傷者68人(重傷9人、軽傷59人)

【住家被害】全壊4棟、半壊14棟、一部破損244棟、床上浸水114棟、床下浸水578棟

注) 令和5年台風第7号による被害及び消防機関等の対応状況(第15報)から

## 1 鳥取市長からのメッセージ

鳥取市長 深澤 義彦

- 水害は想定していたが、今回の台風7号は少し想定とは違っていた。というのも、気象台からの情報をもとに予想していたより、台風の影響が早く出た。8月15日正午ごろに、台風が最接近すると予想されていたが、かなり早く線状降水帯が発生し、早朝から降雨が強まった。山間部を中心に大変な量の雨が降るなど、時系列の読みが少し違った。
- 15日午前4時34分に大雨警報、午前5時に土砂災害警戒情報1号が続けて発表され、午前5時半過ぎには災害対策本部を設置した。もちろん、風水害の関係課は前日から備えていた。遡って考えると、同年7月13日に市東部で時間雨量90ミリの大雨が降り、中学校の法面が崩れる等の災害を受け、8月10日に検証会議を開き、今回の災害に備えていた。その中で、近年の災害が激甚化、頻発化、局所化していることを職員間で共有し、心構えはしっかりしていた。前日から職員配備、支援物資、避難所の開設等に対応していたが、いつどこに被害が出るかはわからなかった。未明に佐治町で時間雨量90ミリの大雨が降ったため、心理的にはかなり押し込まれ、早く動かないといけないと感じ、職員の配備体制も早めた。
- 今回の災害対応で上手くいったことは、まず、避難に関する情報伝達。市独自の防災アプリや防災行政無線、鳥取市防災ラジオ（市が補助し市民が2,000円の自己負担で購入、令和5年12月末時点で15,900台普及。Jアラートや避難情報が発信されると自動起動し、防災行政無線と同じ内容が放送される仕組み）などを使って、避難情報を流した。様々な情報伝達手段を使って市民への避難の呼びかけに腐心した。鳥取市は4年前に庁舎を移転した際に情報伝達・収集を重視し、ケーブルテレビやコミュニティFMのサテライトスタジオを庁舎横に設置した。これに加え、音声告知端末（ケーブルテレビ網を活用した有線放送）も功を奏した。情報の収集にも、8つの総合支所からの情報をWeb会議で的確に収集でき、災害情報共有システムなどで、市内の被災状況がよくわかった。関係機関との連携も上手くいき、災害対応する拠点として新庁舎が機能した。
- 上手くいかなかったことは、前述したとおり災害の進行が予想より早く、災害対応が若干、押し込まれたこと。もう一つは、情報伝達手段が多いのはいいが、発信に手間がかかり、伝達手段によって時間差が生じた。今後の課題として、情報発信の効率化を図らないといけない。災害対応において、情報はキーワードだ。市民の避難行動に繋がらなくてはいけない。
- 今回、もう一つ上手くいったことは、住民の避難行動に繋げるために、少しきつい口調、命令口調で「逃げろ」「避難しろ」と呼びかけた。大きな被害を受けた佐治町の人に話を聞くと、「今回だけは逃げないと危ないと思い、中学校に避難した」と言っていた。市全体で過去最多の720世帯1,934人が避難し、ピーク時には1,934人が避難所に避難された。これ以外にも垂直避難や知人宅に避難した人もたくさんおり、それは数字にはカウントされていないが、多くの人が避難行動をとってくれた。

- 今回、佐治町が孤立したが、実は同年1月の豪雪時にも同地区は孤立していて、ある程度想定していた。隣の河原町でも度々孤立があったのである程度予想はしており、この経験則が生きた。支所を中心に、区長さんと連絡体制を構築していたため、必要な物資がわかり、近くまで届けることができた。消防団や消防局もしっかりと対応できた。ただ、午後4時40分に全市域に出た「大雨特別警報」に伴うレベル5の「緊急安全確保」の発令については、なかなか市民は理解できなかった。「実際どうすればいいんだ」「どこに逃げればいいのか」などの声もあり、今後は平時から市民に避難行動について今まで以上に正しく理解してもらうことが必要だ。今回の大きな教訓だ。市内に808ある自主防災会等を通して啓発活動を続けていき、地域の防災力を高めていきたい。
- 鳥取市は昭和18年（1943）9月10日にマグニチュード7.2の鳥取大地震が発生、これを教訓にこの日に全市的な防災訓練をしている。避難所開設などの図上訓練も随時行っている。市民向けには、町内会主導の防災指導員制度も設け、研修してもらっている。現在、指導員が50人程度でその下のリーダーが762人おられる。この人たちが各地域で防災活動のリーダーになってもらいたい。
- 様々な災害を想定した訓練は有益だ。コロナ禍などの経験を生かした、実践的な訓練は大切。物資の搬送や業務継続などの実動訓練が必要だ。我が国の国土の特性から、どこで、どんな災害が起きてもおかしくない、という心構えも必要だ。自助、共助の考えも大切だ。災害と付き合って暮らしていくという考えをしっかりと持ち、道路などのインフラも災害復旧を頭に置いた国土強靱化を考える必要がある。全国の首長さんに言いたいことは、危機管理時の首長のリーダーシップの大事さだ。被災後の復旧・復興のフェーズをしっかりと見極めることも大事だ。健康に気を付けて、いざと言うときに備えていただきたい。

## 2 災害の概要

台風第7号は、発達した雨雲を伴いながら8月15日5時前に和歌山県に上陸した後、発達した雨雲を維持したまま近畿地方を北上して15日夜に日本海に達した。中国地方では、15日朝に鳥取県や岡山県で線状降水帯が発生するなど、15日明け方から朝にかけて猛烈な雨※1が降り、その後も15日夜にかけて断続的に非常に激しい雨※2が降った。

鳥取県では、11日から17日にかけての総降水量が多い所で500ミリを超え、15日の日降水量が平年の8月の月降水量のおよそ3倍となった地点があるなど、記録的な大雨となった。この大雨において、気象庁は15日夕方に、鳥取県を対象に大雨特別警報を発表した。

この台風による大雨の影響で、浸水害、土砂災害が発生し、住家被害等が発生した。

※1 猛烈な雨：1時間に80mm以上の雨 ※2 非常に激しい雨：1時間に50mm以上80mm未満の雨

注）気象庁「令和5年（2023年）8月15日に鳥取県に大雨特別警報を発表した事例」から

## 3 被害の状況

【人的被害】なし（令和5年8月31日）

【住家被害】49件（全壊1件、半壊2件、床上浸水1件、床下浸水45件）（令和5年9月30日）

【孤立集落】すべて解消（24集落 842世帯 1,799人）（令和5年8月31日時点）

①佐治町

人口：735世帯 1,597名

発生：8月15日17:30

解消：8月18日17:30

原因：国道482号線の通行不能

②安蔵

人口：7世帯15人

発生：8月15日18:36

解消：8月18日20:30

原因：県道河内禎原線道路崩落のため

③国府町雨滝

人口：13世帯24人

発生：8月15日18:36

解消：8月16日11:00

原因：県道鳥取国府岩美線土砂流出による通行不能

④鹿野町河内

人口：80世帯153人

発生：8月15日18:30

解消：8月16日06:00

原因：県道鳥取鹿野倉吉線の崩落

⑤河原町北村

人口：3世帯5人

発生：8月15日20:00

解消：8月16日15:00

原因：県道杣小屋曳田線の土砂流出のため

⑥河原町小河内（新田）

人口：4世帯5人

発生：8月16日12:01

解消：8月17日16:50

原因：市道小河内新田線の土砂流出のため

【公共施設等の被害状況】

①公共土木関係（8月31日時点）

- ・公園 7公園、12箇所（千代川緑地洗掘及び土砂堆積ほか）概算被害金額 約1.8億円
- ・河川 33河川、64箇所（奥ノ谷川護岸崩落ほか）概算被害金額 約9.5億円
- ・道路 81路線、179箇所（市道高山線高山橋含む3橋崩落ほか）概算被害金額 約28.7億円

②農林関係（9月11日時点）

- ・農業用施設 708箇所 概算被害金額 調査中
- ・農地 688箇所 概算被害金額 調査中
- ・林道 28路線 概算被害金額 調査中
- ・農作物被害 園芸作物・小麦・果樹等 概算被害金額 調査中

③その他公共施設（8月31日時点）

- ・下水道施設 9箇所（佐治町の集落排水施設の破損等）
- ・学校施設 6箇所（佐治小の天井崩落等）
- ・保育園 7箇所（賀露保育園の電話不通等）
- ・観光施設 2箇所（白兔道の駅の敷地内法面崩落等）
- ・庁舎 7箇所（プラザ佐治記念ホールの土砂流入等等）

※災害復旧に係る補正予算は、速やかな復旧に向けて精査中。

※被害状況は現時点のものであり、今後の調査で増減する可能性あり。

【水道関係の被害状況】

①河原町中井、小畑、牛戸、湯谷、棚組

原因：土砂崩れによる中井配水池系配水管破損による断水

期間：8月15日 17:05～8月20日 7:30

影響戸数：108戸

②佐治町高山、加瀬木

原因：高山橋一部崩落による中佐治系配水管破損（添架管）による断水

期間：8月15日 17:40～8月22日 3:30

影響戸数：126戸

③佐治町福園

原因：土砂崩れによる万蔵配水池系送水管破損による断水

期間：8月15日 19:00～8月17日 17:30

影響戸数：10戸

④佐治町余戸

原因：導水管破損による断水

期間：8月15日 21:00～8月16日 16:00

影響戸数：43戸

⑤佐治町口佐治

原因：華立浄水場停電による断水

期間：8月15日 19:20～8月17日 7:30

影響戸数：207戸

⑥佐治町つく谷

原因：導水管破損による断水

期間：8月16日 21:00～8月18日 18:30

影響戸数：41戸

⑦佐治町河本

原因：導水管破損による断水

期間：8月19日 8:00～8月20日 16:40

影響戸数：23戸



佐治町葛谷



佐治町余戸



河内

(鳥取市提供)



河原町牛戸

#### 4 災害の時系列

##### 8月14日(月)

14:00 災害警戒庁内連絡会議開催

##### 8月15日(火)

04:34 鳥取市北部【大雨警報(土砂災害)・暴風警報】発表

鳥取市南部【大雨警報(土砂災害・浸水害)・洪水警報・暴風警報】発表

市災害警戒本部体制警戒配備を発令

04:39 記録的短時間大雨情報第1号発表

河原付近で約100ミリ、佐治で91ミリ、佐治付近で90ミリ

04:54 鳥取市北部【大雨警報(土砂災害)】【暴風警報】継続【洪水警報】発表

05:00 鳥取県土砂災害警戒情報第1号発表

対象地域：鳥取市北部・南部

05:35 市災害対策本部体制第一配備を発令

07:30 市災害対策本部会議を開催

07:50 顕著な大雨に関する鳥取県気象情報第1号発表

対象地域：東部・中西部(発生は7:40)

08:07 市災害対策本部体制第三配備を発令

警戒レベル3 高齢者等避難

避難原因：清水川の水位上昇、土砂災害の恐れがあるため

対象地域：美保南地区、河原町、用瀬町、佐治町（9,440世帯、22,266人）

避難場所：美保南地区公民館、美保南小学校、国英地区公民館、河原町コミュニティセンター、用瀬町総合支所、佐治町地域活性化センター

08:19 記録的短時間大雨情報第3号発表

鹿野付近で約100ミリ、鳥取付近で約90ミリ

09:18 警戒レベル3 高齢者等避難

避難原因：土砂災害の恐れがあるため

対象地域：米里、津ノ井、神戸、大和、明治、国府町全域、鹿野町全域（9,352世帯、21,540人）

避難場所：若葉台地区公民館、大和地区公民館、鳥取県民体育館、国府町総合支所、鹿野町農業者トレーニングセンター

09:53 警戒レベル4 避難指示

避難原因：佐治川の水位上昇

対象地域：佐治町葛谷（上葛谷、葛谷）、古市、加瀬木（加瀬木、下加瀬木）（175世帯、398人）

避難場所：佐治町地域活性化センター、佐治町コミュニティセンター

14:38 警戒レベル3 高齢者等避難

避難原因：塩見川の水位上昇のため

対象地域：福部町細川（駅前地区）（102世帯、288人）

避難場所：福部砂丘温泉ふれあい会館

15:26 警戒レベル4 避難指示

避難原因：千代川水系の水位上昇

対象地域：河原町片山、今在家、高福、徳吉（180世帯、446人）

避難場所：国英地区公民館

16:17 警戒レベル5 緊急安全確保

避難原因：佐治川ダムの緊急放流のため

対象地域：佐治町葛谷（上葛谷、葛谷）、古市、加瀬木（加瀬木、下加瀬木）、河本、森坪、用瀬町別府、古用瀬（436世帯、1,018人）

避難場所：佐治町地域活性化センター、佐治町コミュニティセンター、佐治町B&G海洋センター、千代南中学校

16:40 大雨特別警報（浸水害）発表

対象地域：鳥取市北部・南部

警戒レベル5 緊急安全確保

避難原因：大雨特別警報が発表されたため

対象地域：鳥取市全域（81,915世帯、181,859人）

避難場所

【発令時間 20:28】

浜村小学校、宝木小学校、瑞穂小学校、逢坂地区公民館、用瀬小学校、あおば地区公民館、国

府中学校、国府町コミュニティセンター、鳥取刑務所武道館

【発令時間 21:34】

美保小学校、米里小学校、醇風小学校、遷喬小学校、修立小学校、日進小学校、富桑小学校、城北小学校、明德小学校、倉田小学校、面影小学校、大正小学校、東郷小学校、明治小学校、世紀小学校、末恒小学校、津ノ井小学校、浜坂小学校、岩倉小学校、湖山西小学校、湖南学園、江山学園、中ノ郷小学校

【発令時間 22:34】

久松小学校、稲葉山小学校、賀露小学校、湖山小学校、若葉台小学校

17:20 大雨特別警報（土砂災害）発表

対象地域：鳥取市北部・南部

19:00 県・市合同災害対策本会議を開催

23:10 鳥取市北部【大雨特別警報（浸水害・土砂災害）】解除

鳥取市南部【大雨特別警報（浸水害・土砂災害）】解除

## 8月16日（水）

07:00 警戒レベル4 避難指示（緊急安全確保からの変更）

避難原因：土砂災害のおそれがあるため

対象地域：鳥取市全域

避難場所：浜坂地区公民館、湖山地区公民館、美保南小学校、美保南地区公民館、大和地区公民館、鳥取県民体育館、富桑小学校、美保小学校、修立小学校、日進小学校、鳥取刑務所、国府町総合支所、谷地区公民館、国府町コミュニティセンター、河原町コミュニティセンター、国英地区公民館、用瀬町総合支所、社地区公民館、用瀬地区公民館、千代南中学校、佐治町総合支所、佐治町地域活性化センター、佐治町コミュニティセンター、佐治町 B&G 海洋センター、浜村小学校、青谷町総合支所

09:30 県・市合同災害対策本会議を開催

現地災害対策本部の設置

## 8月17日（木）

05:00 鳥取県土砂災害警戒情報第17号

解除対象地域：鳥取市北部・南部

市災害対策本部体制第一配備を発令（第三配備から移行）

## 8月18日（金）

04:10 鳥取市北部【大雨警報（土砂災害）】解除

鳥取市南部【大雨警報（土砂災害）】解除

## 8月21日（月）

16:15 市災害対策本部会議を開催

17:05 市災害対策本部体制第一配備を解除（令和5年台風第7号災害復旧・復興本部へ移行）

## 5 コラム

昨年8月の被災から5か月が過ぎた1月11日午後、鳥取市佐治町を北村誠太郎・同市危機管理課課長補佐と下石（おろじ）直生・佐治町総合支所副支所長の案内で視察した。鳥取市の中心街から南へ車で約1時間、町内を佐治川が流れる山間地だ。被災から半年近くがたっているが、護岸がえぐられ、崩落した橋や道路がまだ残っており、当時の膨大な水量が予測される。

8月15日の昼頃に台風7号が最接近し、雨のピークはその頃と予想されていたが、未明から豪雨に見舞われた。下石副支所長は早朝から支所に出勤したが、庁舎に着いた時にはすでに支所の1階は浸水していた。他の職員と協力しながら、町内の被害状況の把握に努め、市役所の災害対策本部と連絡を取った。1月の豪雪で地区内の一部が孤立したことが教訓となり、今回の水害からの避難に役立ったという。情報伝達や備蓄、支援物資の搬送などにも。特に住民との情報伝達で役立ったのは、告知端末というケーブルテレビ付きの有線電話だった。防災行政無線と併用しながら、住民に避難指示を出し、多くの人の避難につながった。停電や給水情報などの伝達にも役立ったという。



鳥取市佐治町内（1月11日）



鳥取市佐治町内2



同3